

川崎市人権に関する市民意識調査 報告書

令和3（2021）年5月

川 崎 市

はじめに

川崎市は、戦前・戦後を通じて京浜工業地帯の中核として発展してきた工業都市であり、日本国内はもとより、海外からも多くの人に移り住み、多様な文化が交流する「多文化のまち」へと発展してきました。大正13（1924）年7月の市制施行時、人口約5万人であったまちは、現在、その人口は、30倍を超える大都市へと成長を遂げています。

川崎市では、国籍や民族、文化の違いを豊かさとして生かし、全ての人互いに認め合い、人権が尊重され、自立した市民として共に暮らしていくことができる「多文化共生社会」の実現に向けてさまざまな取組を進めており、人権を尊重し、共に生きる社会を目指して、平成12（2000）年に「川崎市人権施策推進指針」を、平成19（2007）年には「川崎市人権施策推進基本計画」を策定しました。

その後、それまでの施策を基本としながら、人権関連の法律・条例の整備状況や新たな人権課題などを踏まえ、平成27（2015）年3月に「川崎市人権施策推進基本計画『人権かわさきイニシアチブ』」を策定し、平等と多様性を尊重しながら、人権施策を推進してきました。

また、「川崎市子どもの権利に関する条例（平成12年川崎市条例第72号）」をはじめ、「男女平等かわさき条例（平成13年川崎市条例第14号）」や「川崎市人権オンブズパーソン条例（平成13年川崎市条例第19号）」の制定、「川崎市多文化共生社会推進指針（平成17（2005）年3月策定、平成27（2015）年10月に2度目の改定）」の策定等、分野別の人権施策の取組も行ってきました。

しかしながら、国による平成28（2016）年の「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（平成28年法律第68号）」制定以降も、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動」をはじめ、インターネットを利用した人権侵害などの人権課題も生じています。

このような中、令和元（2019）年12月に、「川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例」を制定し、全ての市民が不当な差別を受けることなく、個人として尊重され、生き生きと暮らすことができる人権尊重のまちづくりを推進していくため、さまざまな取組を進めています。

市民の人権意識などを把握し、今後の施策の検討等に活用するため、5年ごとに調査を実施しており、今回の調査結果についても、今後の施策に積極的に反映させつつ、川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例の理念の実現に向け、さらなる努力を重ねてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、今回の調査に当たって、御協力いただきました市民の皆様にご心から御礼申し上げます。

令和3（2021）年5月

川崎市 市民文化局 人権・男女共同参画室

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	抽出方法	1
4	調査期間	1
5	調査方法	1
6	回収結果	1
7	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	回答者について	2
2	人権について	6
3	人権侵害を受けた経験について	16
4	人権相談窓口について	21
5	人権課題に対する関心について	41
6	女性の人権について	59
7	子どもの人権について	63
8	高齢者の人権について	67
9	障害者の人権について	71
10	同和問題について	76
11	外国人の人権について	80
12	新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について	84
13	拉致問題について	88
14	性的マイノリティの人権について	92
15	インターネットに関する人権問題について	97
16	犯罪被害者やその家族の人権について	101
17	「川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例」について	105
18	それぞれの人権課題について	109
III	調査結果のまとめ	127
1	基本属性のクロス集計	127
2	人権課題の規範意識に関する比較	128
3	川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例の認知度について	152
IV	調査票	154

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、人権に関する市民の意識を把握し、全ての市民が不当な差別を受けることなく、個人として尊重され、生き生きと暮らすことができる人権尊重のまちづくりを推進していくための基礎資料として活用することを目的として実施しました。

2 調査対象

川崎市在住の満20歳以上の方2,500人

3 抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出

4 調査期間

令和2(2020)年12月7日～令和3(2021)年1月7日

5 調査方法

郵送による配布・回収

6 回収結果

配布数	有効回答数	有効回答率
2,500通	1,069通	42.8%

7 調査結果の表示方法

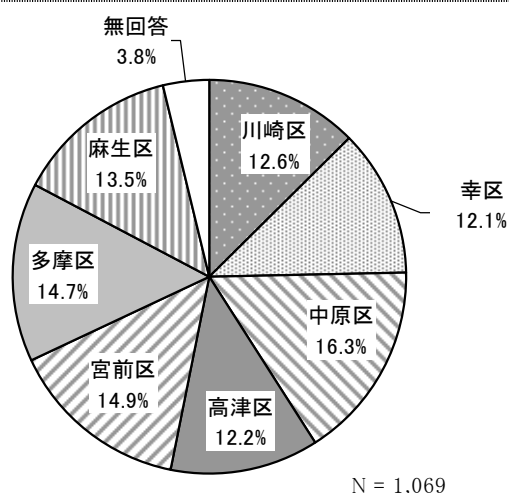
- ・回答は各質問の回答者数(N)を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、性別については、原則として「その他」を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計(全体)の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・また、性別「その他」は回答者数が少なく統計的に有意とはいえないため、原則として調査結果のまとめでの言及を差し控えています。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、「II 調査結果」において、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。(無回答を除く。)
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

II 調査結果

1 回答者について

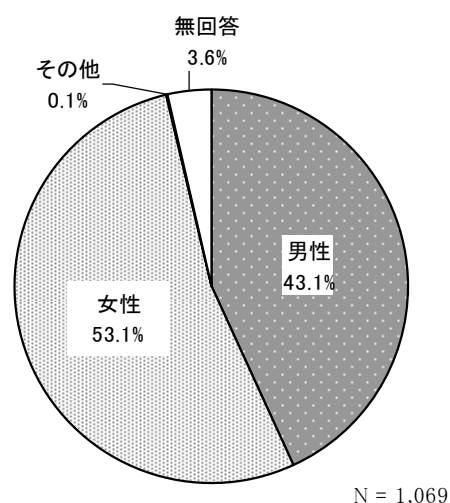
F1 あなたの住んでいる区を教えてください。(〇は1つ)

回答者の居住区は「中原区」が16.3%と最も多く、次いで「宮前区」が14.9%、「多摩区」が14.7%となっている。



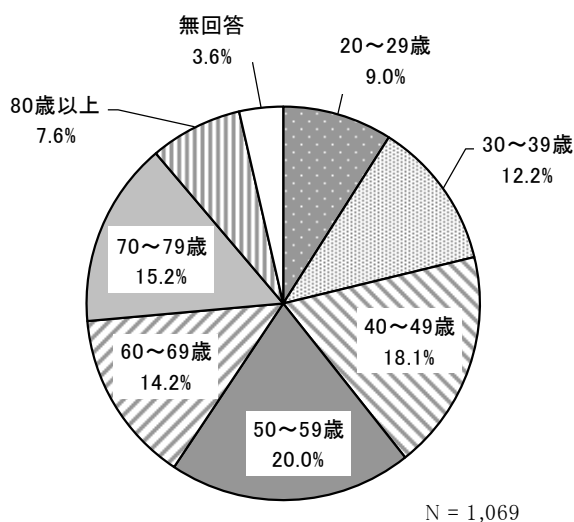
F2 あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)

回答者の性別は「男性」が43.1%、「女性」が53.1%、「その他」が0.1%となっている。



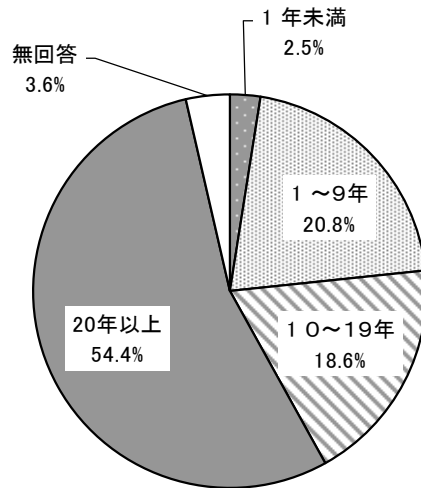
F3 あなたの年齢を教えてください(令和2(2020)年11月1日現在の満年齢)。(〇は1つ)

回答者の年齢は「50～59歳」が20.0%と最も多く、次いで「40～49歳」が18.1%、「70～79歳」が15.2%となっている。



F4 あなたの川崎市内の居住年数を教えてください。(〇は1つ)

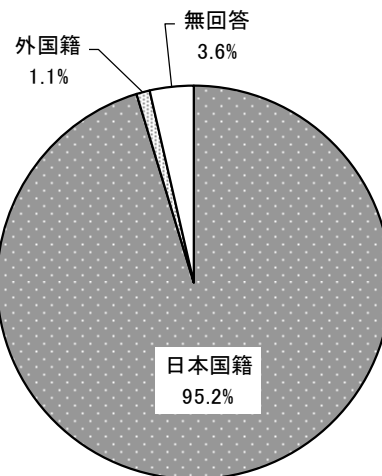
回答者の市内居住年数は「20年以上」が54.4%と最も多く、次いで「1～9年」が20.8%、「10～19年」が18.6%となっている。



N = 1,069

F5 あなたの国籍を教えてください。(〇は1つ)

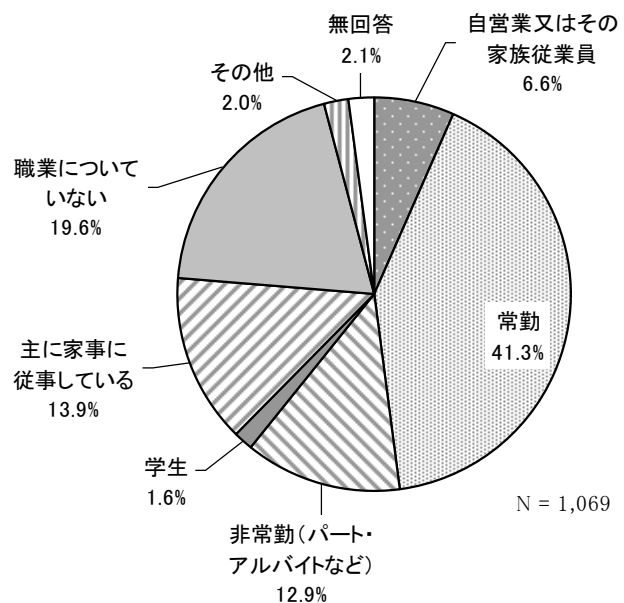
回答者の国籍は「日本国籍」が95.2%、「外国籍」が1.1%となっている。



N = 1,069

F6 あなたの現在の御職業を教えてください。(いくつかあてはまる場合は、主なものに〇を1つ)

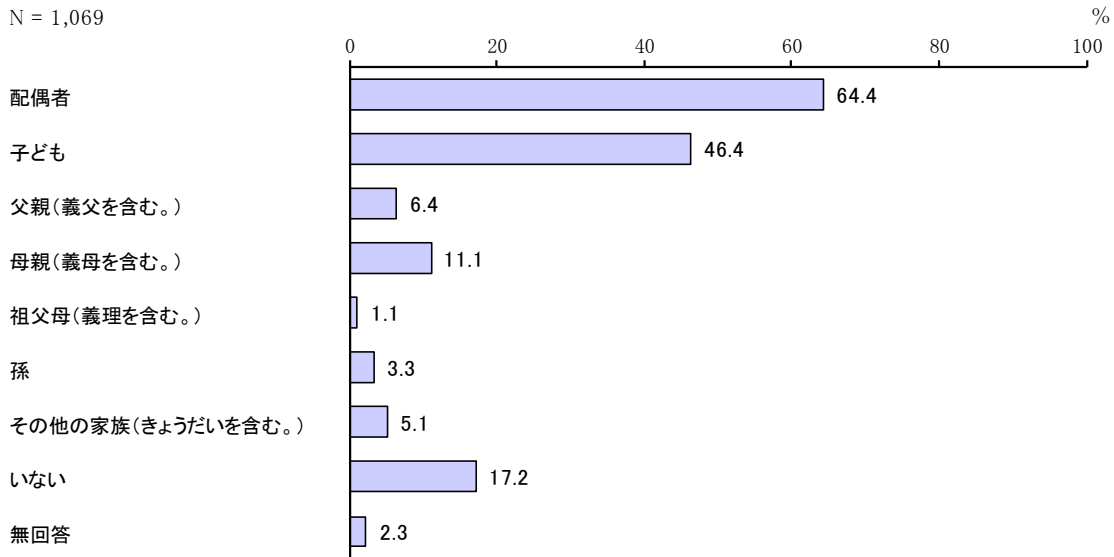
回答者の職業は「常勤」が41.3%と最も多く、次いで「職業についていない(年金などで生活している人を含む)」が19.6%、「主に家事に従事している」が13.9%となっている。



N = 1,069

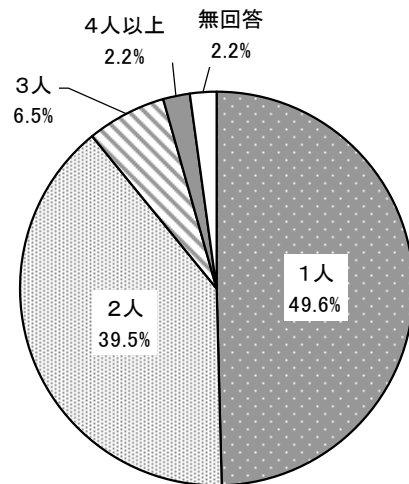
F7 あなたと一緒に住んでいる家族を教えてください。(〇はいくつでも)

回答者が一緒に住んでいる家族は「配偶者」が64.4%と最も多く、次いで「子ども」が46.4%、「いない」が17.2%となっている。



子どもの人数

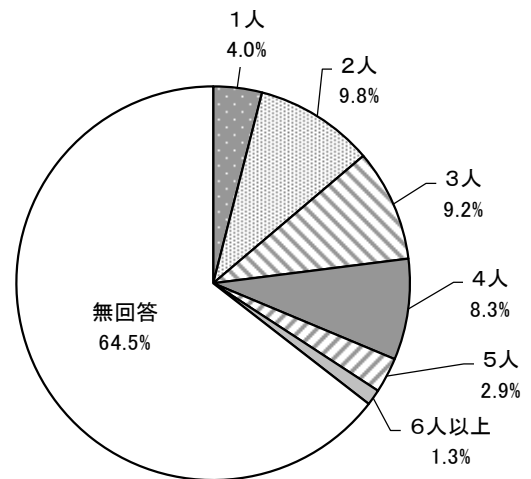
子どもの人数では「1人」が49.6%と最も多く、次いで「2人」が39.5%となっている。



N = 496

世帯人員

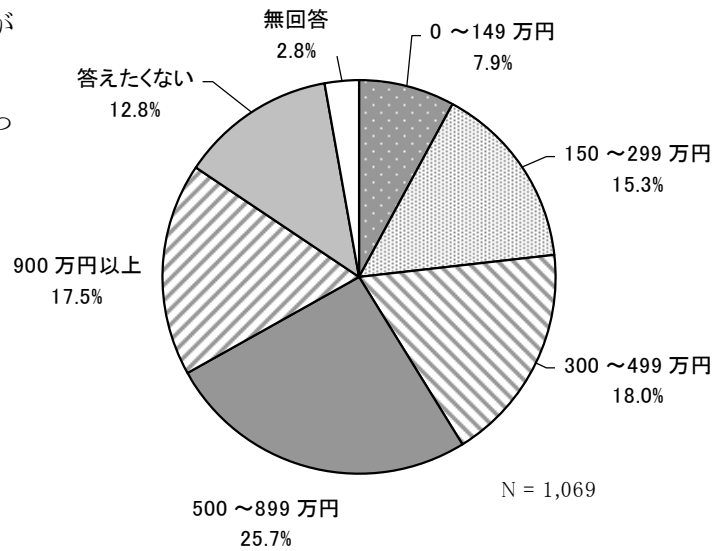
世帯人数では「無回答」が64.5%と最も多く、次いで「2人」が9.8%となっている。



N = 1,069

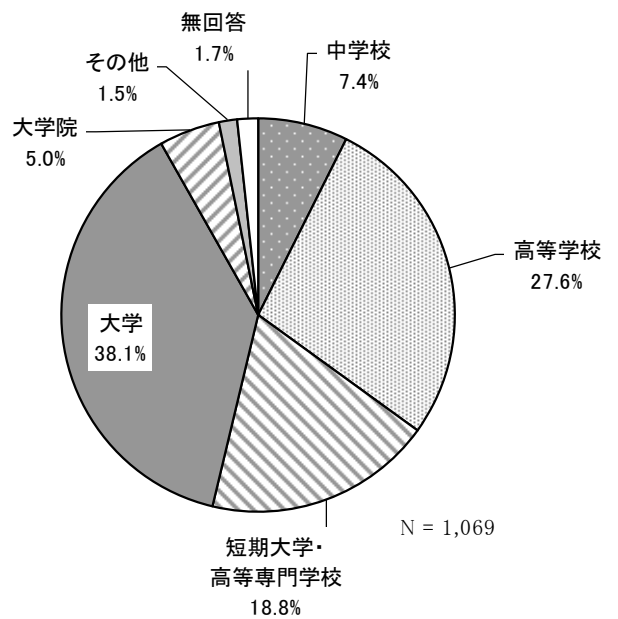
F8 あなたの世帯の年収（税込み）は次のどの範囲か教えてください。（○は1つ）

回答者の世帯年収は「500～899万円」が25.7%と最も多く、次いで「300～499万円」が18.0%、「900万円以上」が17.5%となっている。



F9 あなたの最終学歴（在学中を含む。）について教えてください。（○は1つ）

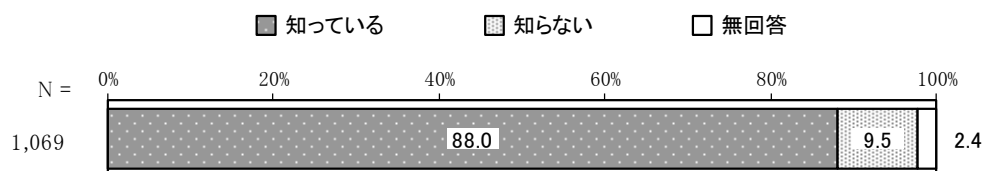
回答者の最終学歴は「大学」が38.1%と最も多く、次いで「高等学校」が27.6%、「短期大学・高等専門学校」が18.8%となっている。



2 人権について

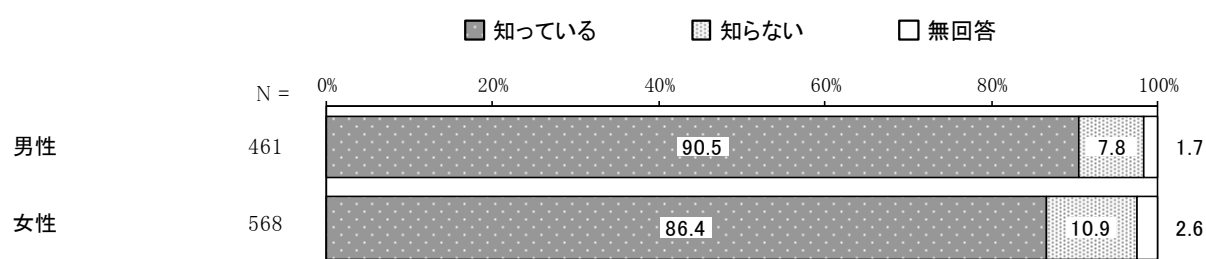
問1 あなたは、基本的人権は侵すことのできない永久の権利として、憲法で保障されていることを知っていますか。(〇は1つ)

「知っている」が88.0%で9割近くにのぼる一方、「知らない」も9.5%で約1割いる。



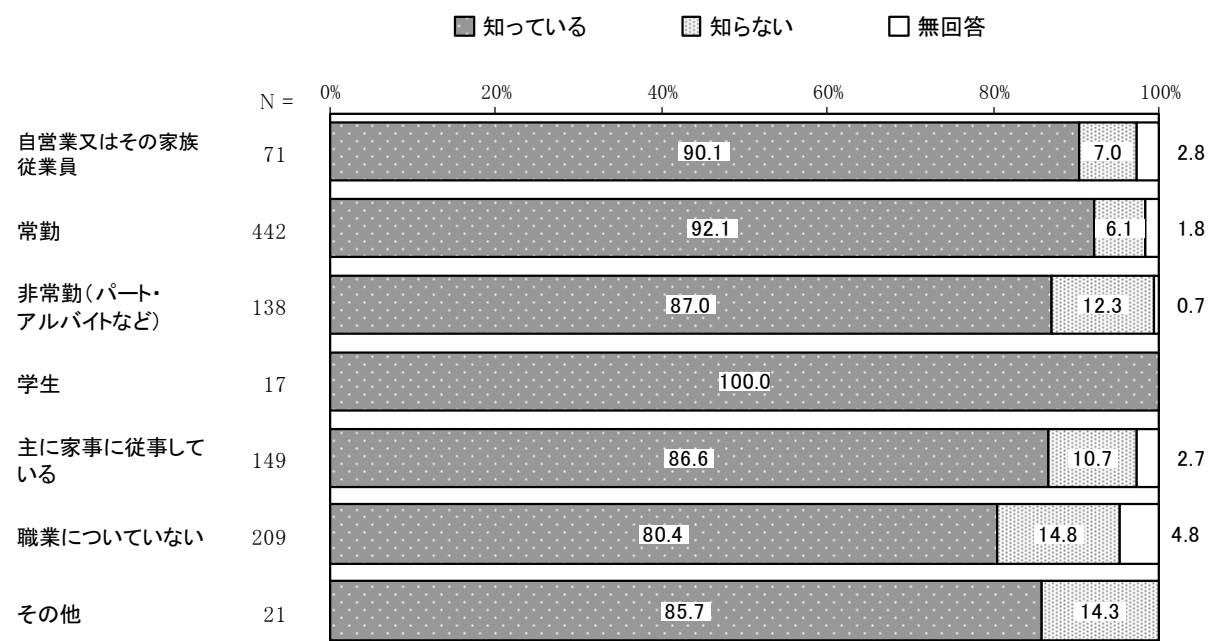
【性別】

性別でみると、「知っている」は男性の方が女性よりも4.1ポイント高い。



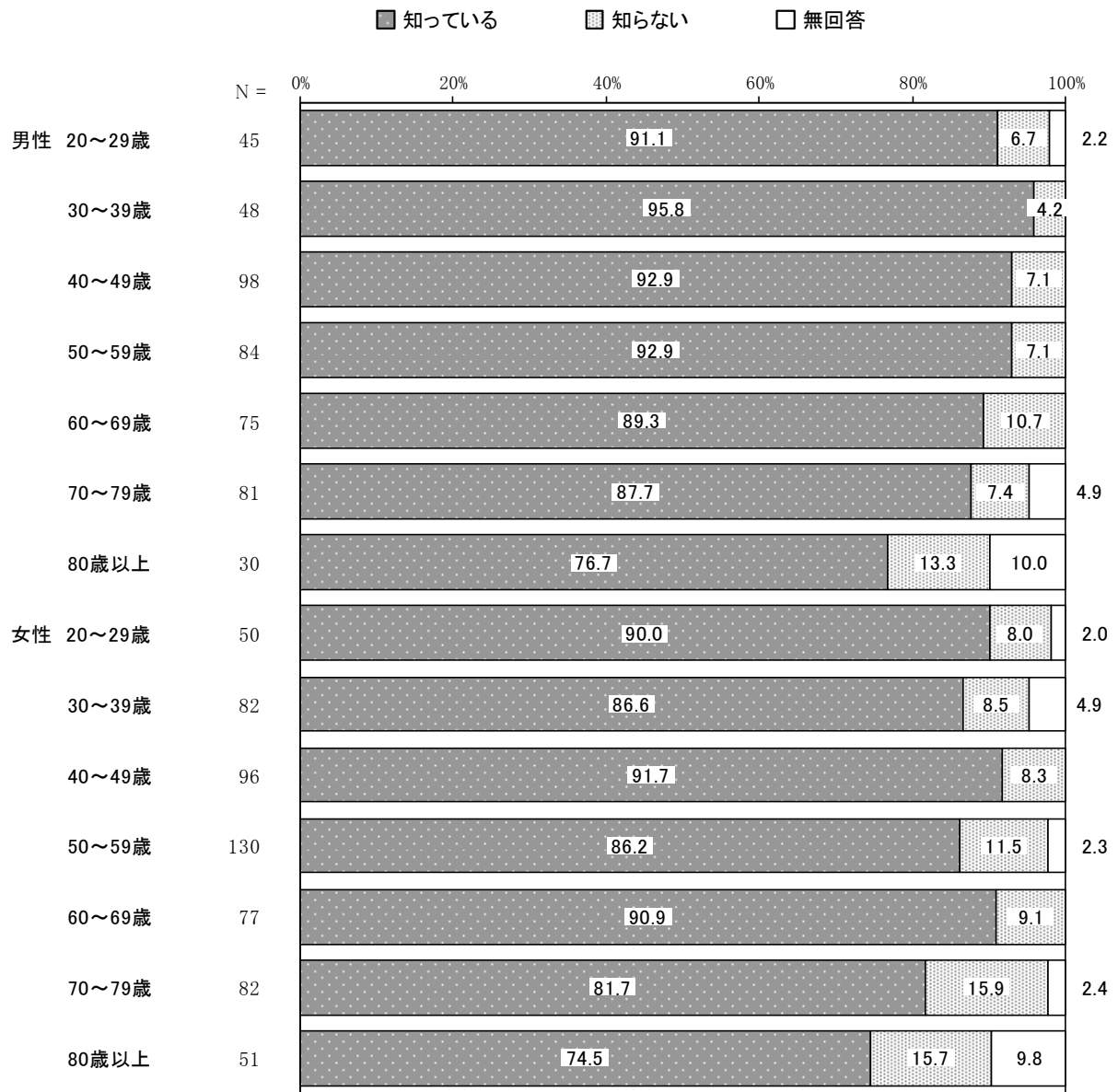
【職業別】

職業別でみると、「知っている」はいずれも8割を超えて多いが、特に学生では100.0%となっている。



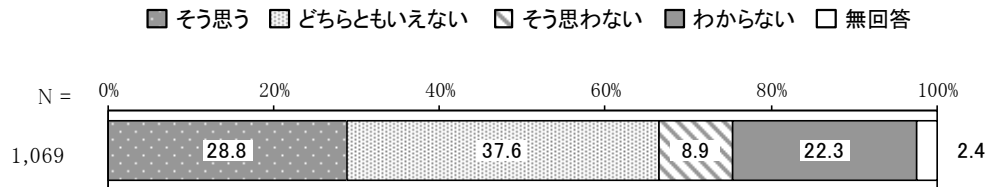
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、全体的に「知っている」が多いが、男女ともに80歳以上では7割台となっている。



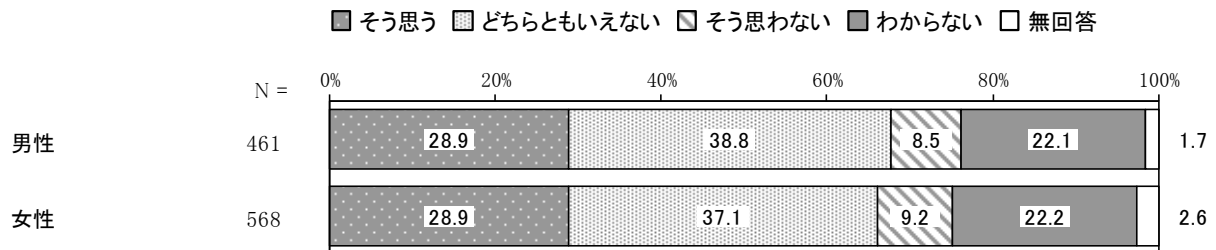
問2 あなたは、川崎市では、一人ひとりの人権が尊重されていると感じますか。
(○は1つ)

「どちらともいえない」が37.6%と最も多く、次いで「そう思う」が28.8%、「わからない」が22.3%となっている。



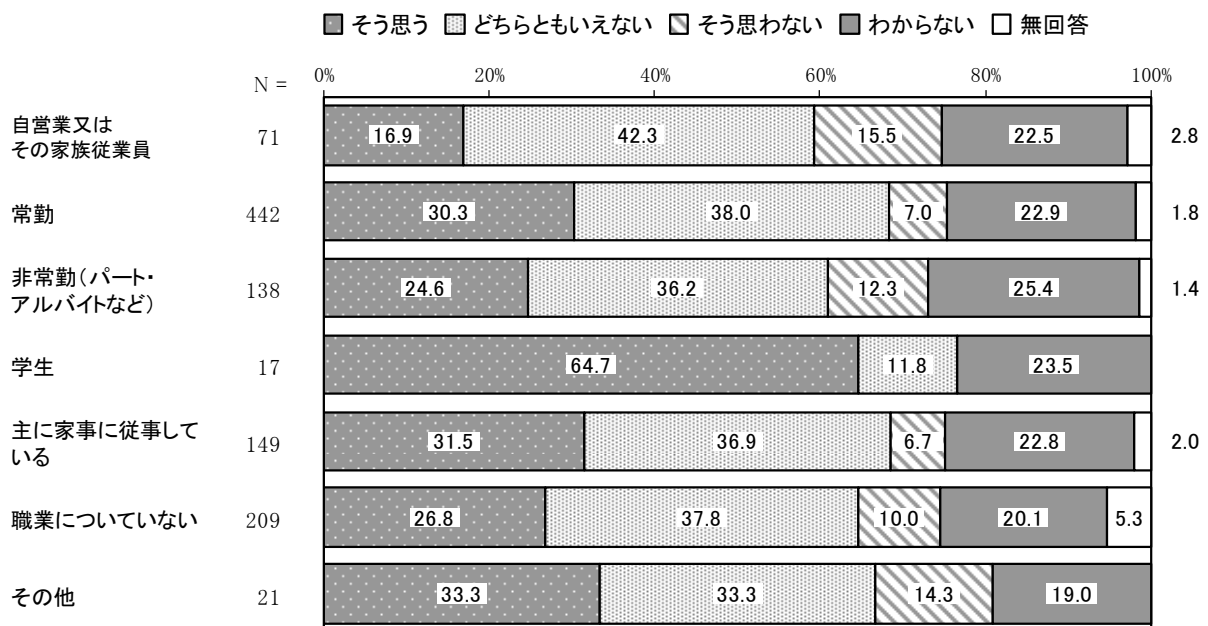
【性別】

性別でみると、男女で大きな差は見られず、ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。



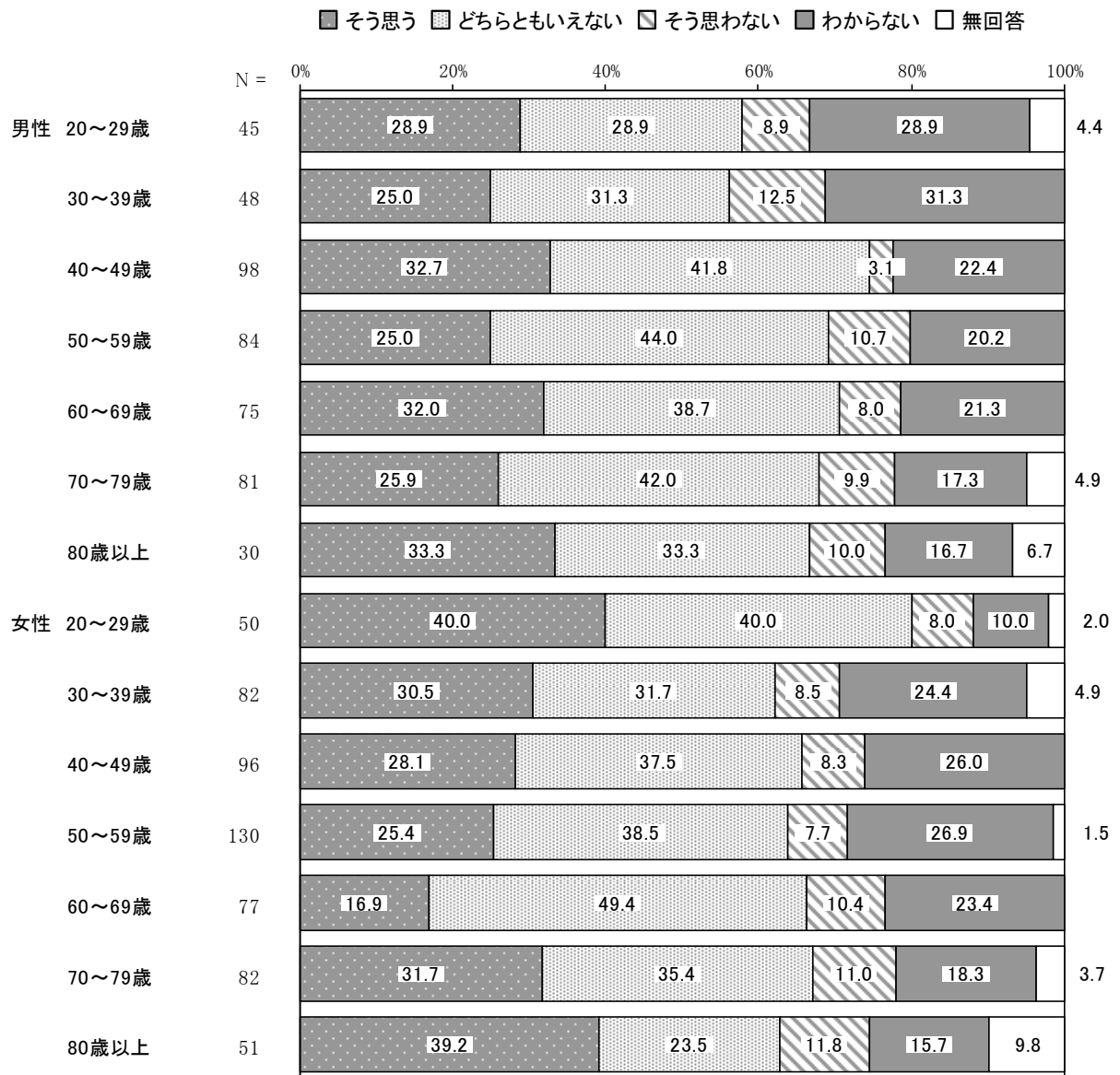
【職業別】

職業別でみると、「そう思う」で学生が64.7%と他に比べて特に高くなっている。



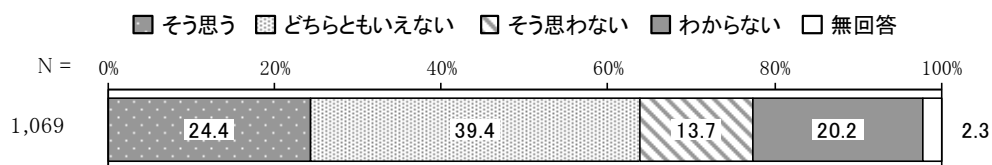
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の20～29歳と80歳以上で「そう思う」が約4割と他に比べて高い。



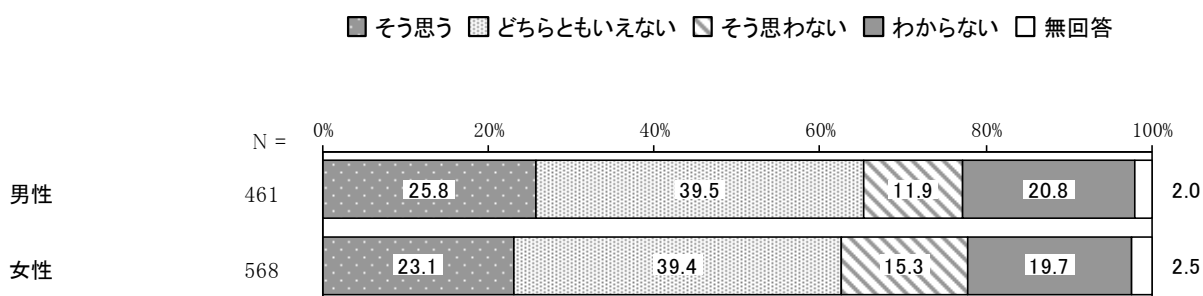
**問3 あなたは、川崎市では、一人ひとりが互いに違いを認め合い、共に暮らして
いける社会になっていると思いますか。(〇は1つ)**

「どちらともいえない」が 39.4%と最も多く、次いで「そう思う」が 24.4%、「わからない」が 20.2%となっている。



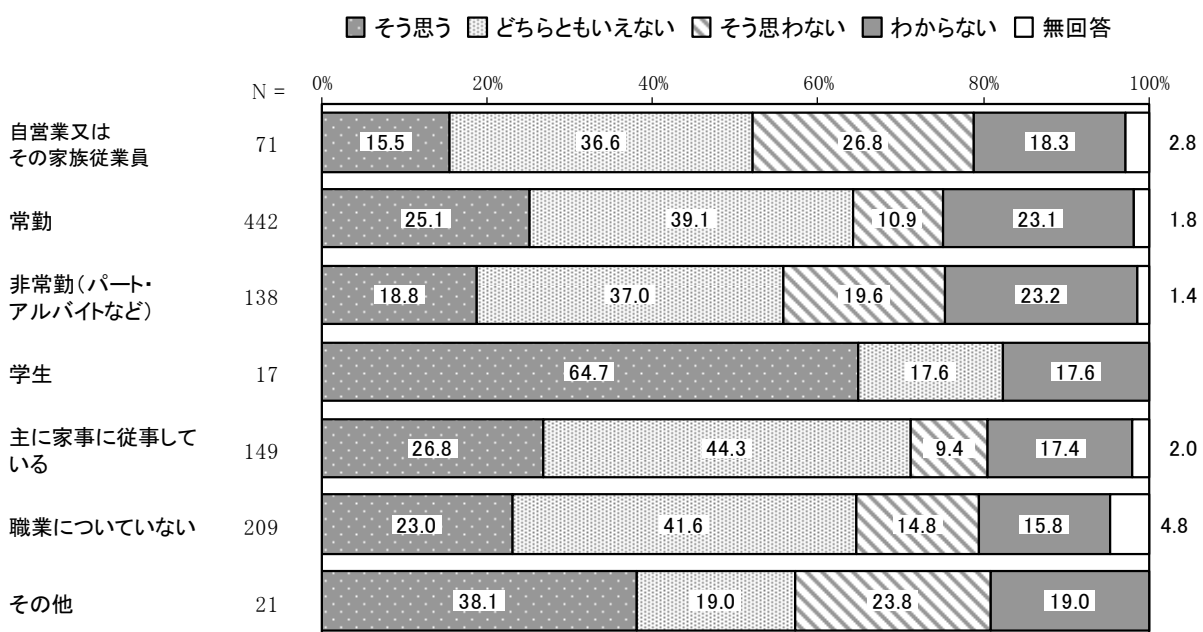
【性別】

性別でみると、男女で大きな差は見られず、ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。



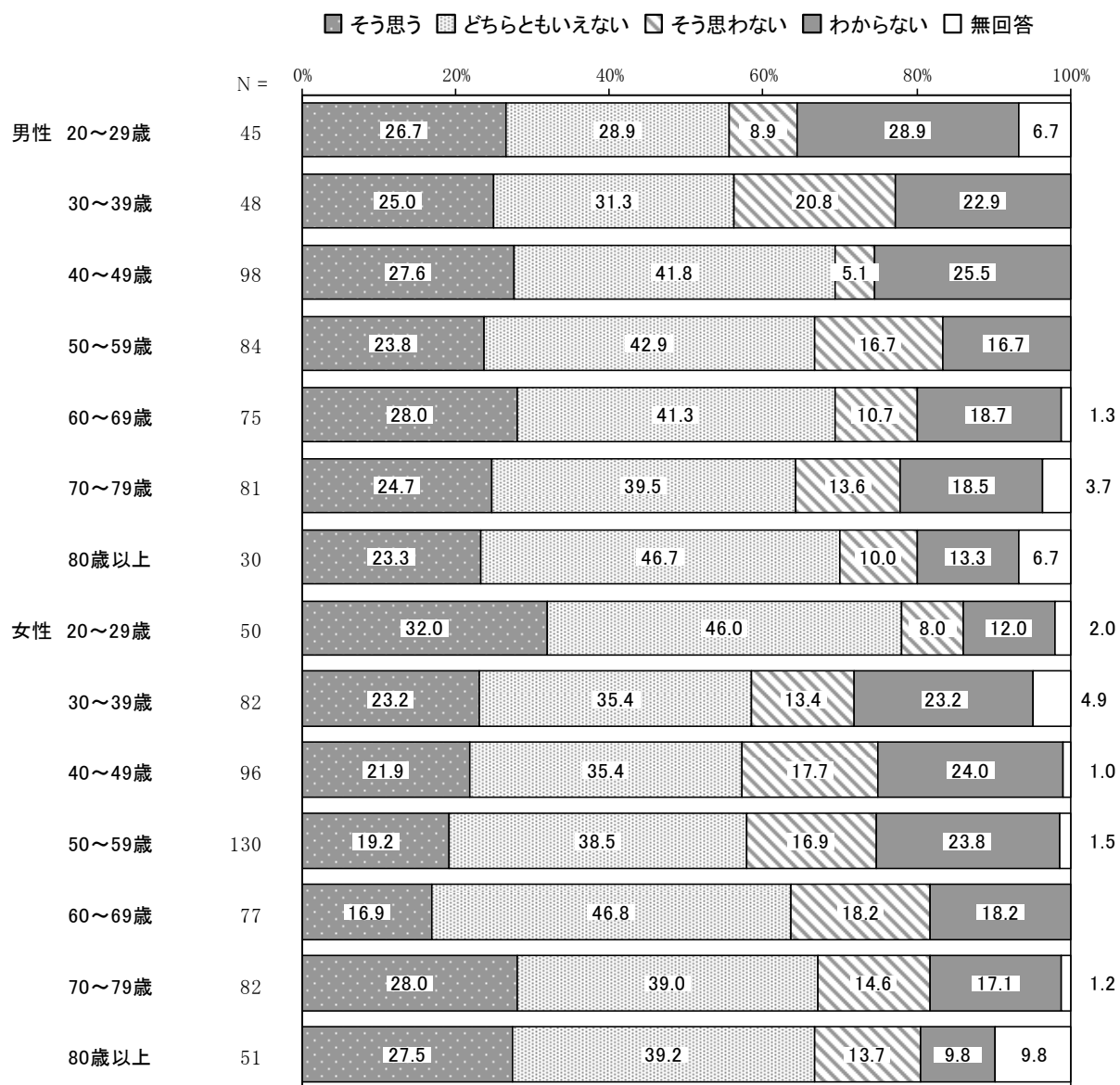
【職業別】

職業別でみると、「そう思う」で学生が 64.7%と他に比べて特に高くなっている。



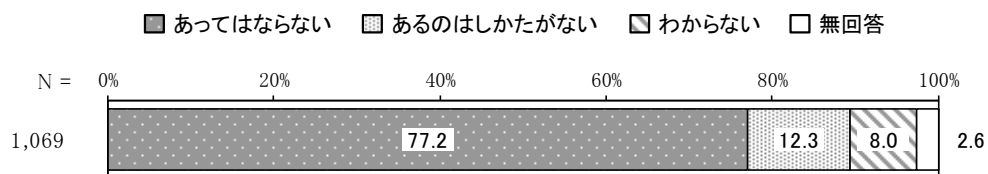
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、「そう思う」では女性 20～29 歳で唯一 3 割を超えている。一方で、「そう
思わない」では男性 30～39 歳で唯一 2 割を超えている。



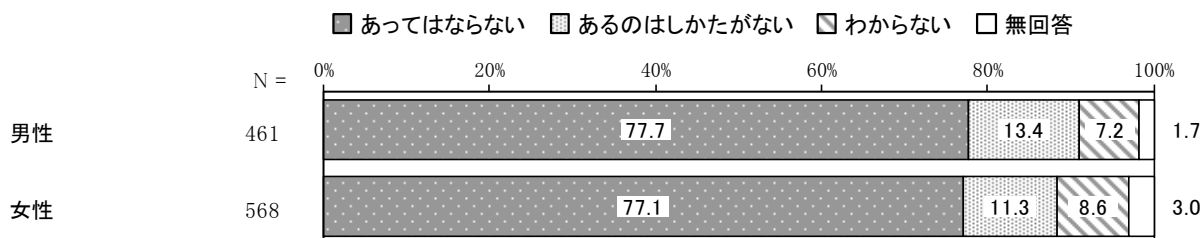
問4 「人権侵害」があることについて、あなたのお考えに近いものはどれですか。
(○は1つ)

「あってはならない」が77.2%と最も多く、次いで「あるのはしかたがない」が12.3%となっている。



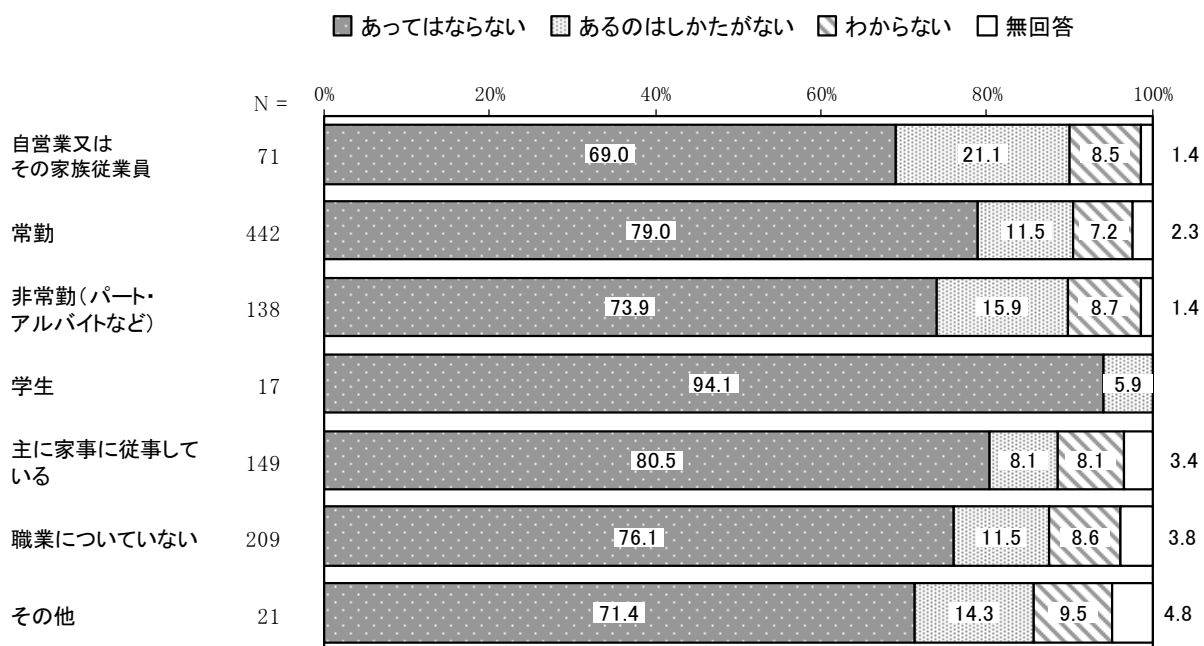
【性別】

性別でみると、男女で大きな差は見られない。



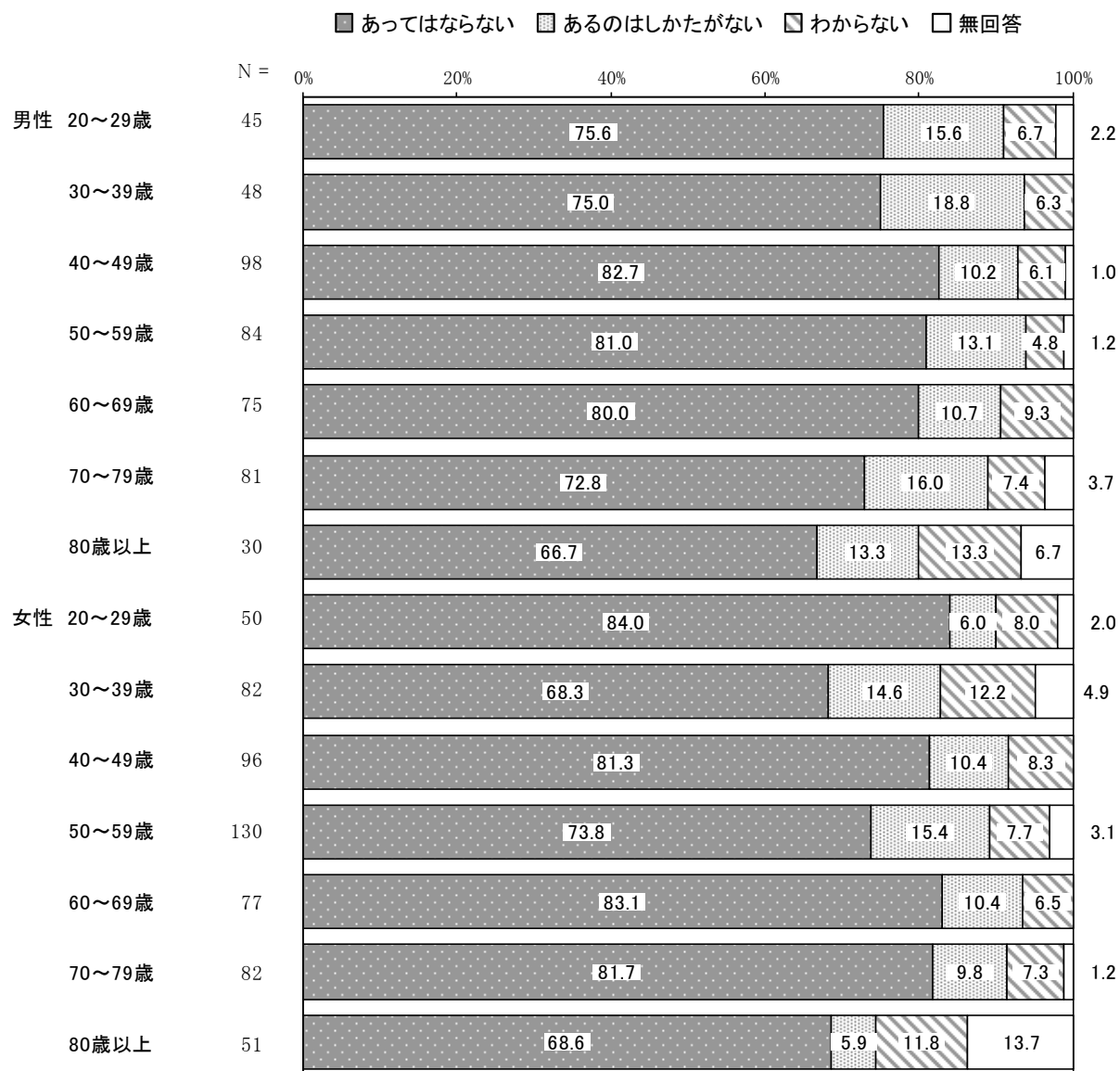
【職業別】

職業別でみると、いずれも「あってはならない」が最も多いが、学生では唯一9割を超えている。



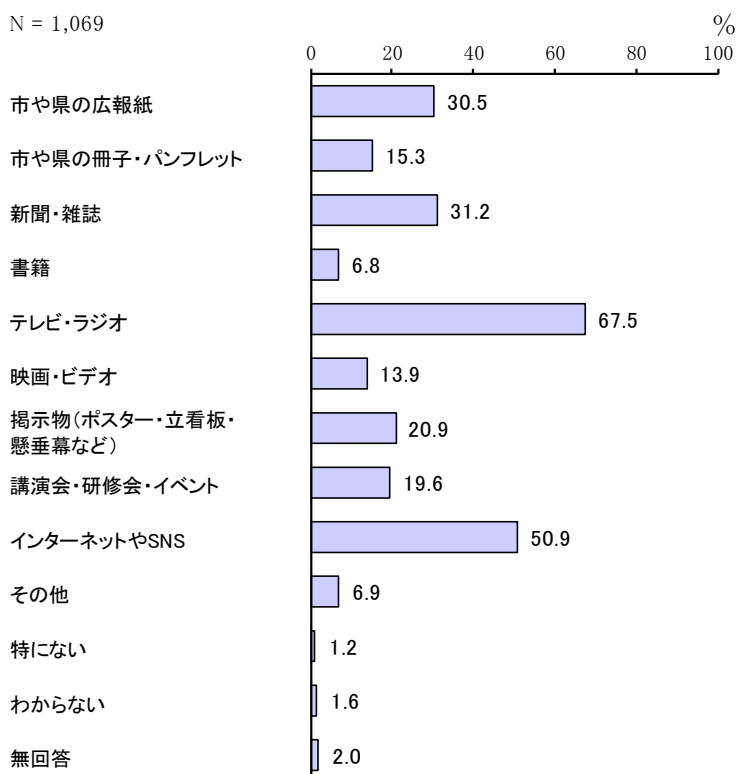
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、いずれも「あつてはならない」が最も多いが、男女ともに80歳以上では6割台となっている。



問5 あなたは、人権について理解を深める上で、どのような方法が役立つと思いますか。(番号は3つまで)

「テレビ・ラジオ」が67.5%と最も高く、次いで「インターネットやSNS」が50.9%、「新聞・雑誌」が31.2%となっている。



【性別】

性別でみると、男女ともに「テレビ・ラジオ」が最も多く、次いで「インターネットやSNS」となっている。

単位：%

区分	有効回答数(件)	市や県の広報紙	市や県の冊子・パンフレット	新聞・雑誌	書籍	テレビ・ラジオ	映画・ビデオ	掲示物(ポスター・立看板・懸垂幕など)	講演会・研修会・イベント	インターネットやSNS	その他	特にない	わからない	無回答
男性	461	27.5	14.8	32.8	8.0	62.9	13.4	20.4	18.4	56.2	6.9	1.7	1.7	1.3
女性	568	32.7	15.5	30.5	5.6	71.5	14.3	21.1	20.6	47.7	6.9	0.9	1.6	2.1

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、全体としては「テレビ・ラジオ」が多いが、男性 30～39 歳、40～49 歳、50～59 歳、女性 20～29 歳では「インターネットや SNS」の割合が最も多くなっている。

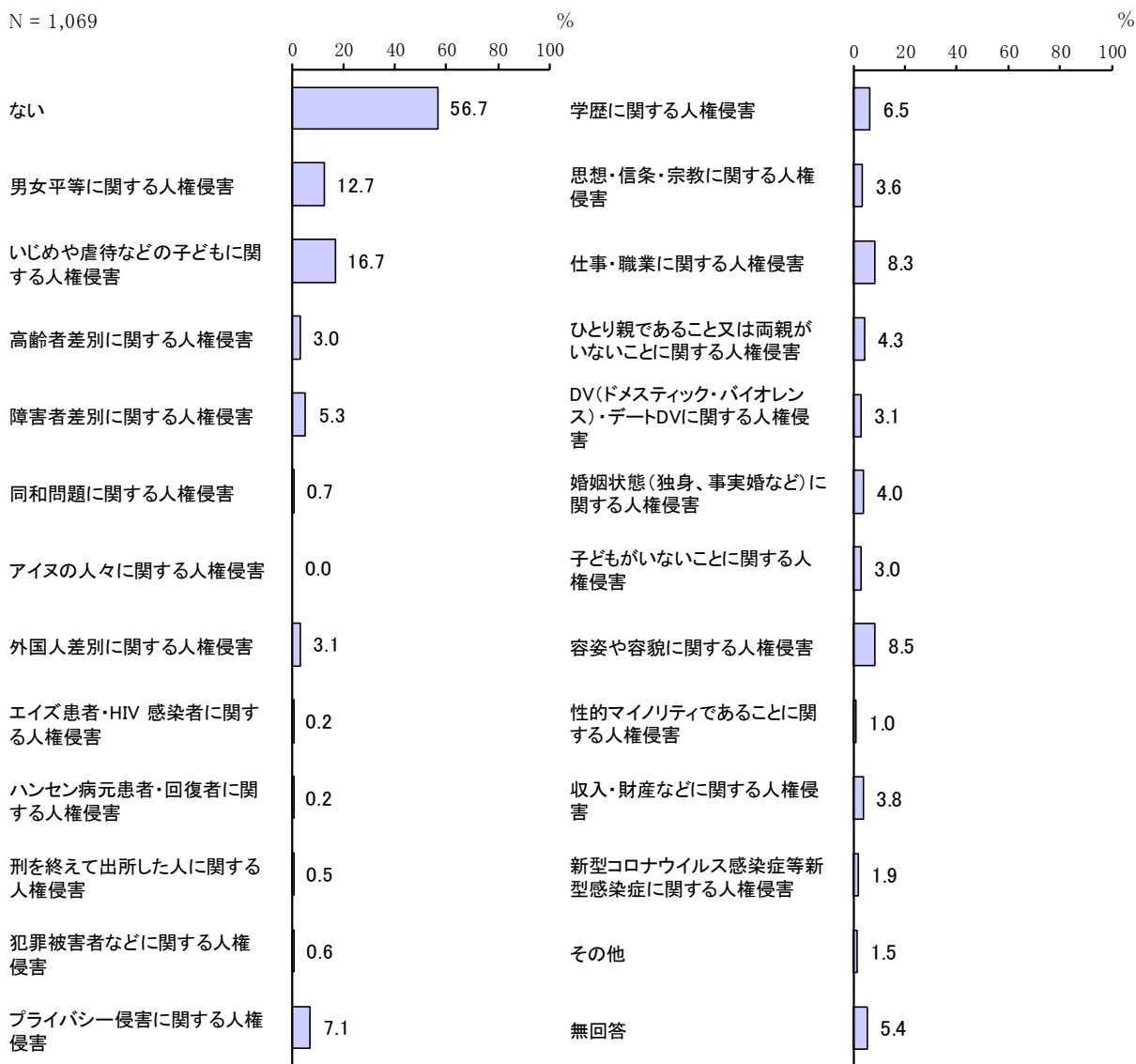
単位：％

区分	有効回答数(件)	市や県の広報紙	市や県の冊子・パンフレット	新聞・雑誌	書籍	テレビ・ラジオ	映画・ビデオ	掲示物(ポスター・立看板・懸垂幕など)	講演会・研修会・イベント	SNS	インターネットや	その他	特にない	わからない	無回答
男性 20～29 歳	45	15.6	2.2	28.9	13.3	68.9	24.4	24.4	17.8	66.7	6.7	2.2	—	2.2	
30～39 歳	48	10.4	4.2	14.6	12.5	54.2	25.0	25.0	18.8	64.6	4.2	6.3	4.2	—	
40～49 歳	98	15.3	7.1	22.4	7.1	69.4	16.3	20.4	16.3	76.5	9.2	1.0	1.0	1.0	
50～59 歳	84	29.8	14.3	31.0	8.3	63.1	14.3	16.7	17.9	69.0	7.1	2.4	1.2	—	
60～69 歳	75	33.3	20.0	41.3	9.3	65.3	9.3	17.3	24.0	48.0	9.3	—	2.7	—	
70～79 歳	81	45.7	25.9	44.4	2.5	58.0	4.9	21.0	19.8	32.1	3.7	1.2	—	2.5	
80 歳以上	30	43.3	33.3	53.3	6.7	53.3	—	23.3	10.0	10.0	6.7	—	6.7	6.7	
女性 20～29 歳	50	16.0	4.0	18.0	18.0	66.0	30.0	18.0	12.0	80.0	8.0	—	—	2.0	
30～39 歳	82	22.0	8.5	17.1	3.7	68.3	17.1	28.0	14.6	65.9	7.3	1.2	—	4.9	
40～49 歳	96	20.8	16.7	21.9	7.3	77.1	18.8	24.0	18.8	57.3	12.5	—	1.0	—	
50～59 歳	130	21.5	10.8	25.4	3.1	73.1	15.4	22.3	24.6	61.5	9.2	1.5	2.3	1.5	
60～69 歳	77	42.9	20.8	46.8	6.5	74.0	10.4	16.9	18.2	27.3	3.9	1.3	1.3	1.3	
70～79 歳	82	58.5	22.0	46.3	2.4	70.7	4.9	24.4	29.3	19.5	1.2	—	2.4	—	
80 歳以上	51	60.8	29.4	43.1	3.9	64.7	3.9	5.9	21.6	9.8	2.0	2.0	3.9	7.8	

3 人権侵害を受けた経験について

問6 今までに、あなた自身や御家族が次のような「人権侵害」を受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

「ない」が56.7%と最も多く、次いで「いじめや虐待などの子どもに関する人権侵害」が16.7%、「男女平等に関する人権侵害」が12.7%となっている。



【性別】

性別でみると、男女ともに「ない」が最も多いが、女性は男性よりも10.8ポイント低い。

単位：%

区分	有効回答数(件)	ない	男女平等に関する人権侵害	いじめや虐待などの子どもに関する人権侵害	高齢者差別に関する人権侵害	障害者差別に関する人権侵害	同和問題に関する人権侵害	アイヌの人々に関する人権侵害	外国人差別に関する人権侵害	エイズ患者・HIV感染者に関する人権侵害	ハンセン病元患者・回復者に関する人権侵害	刑を終えて出所した人に関する人権侵害	犯罪被害者などに関する人権侵害	プライバシー侵害に関する人権侵害
男性	461	63.1	6.3	12.1	3.5	3.0	1.1	—	3.0	—	0.2	0.4	0.2	5.9
女性	568	52.3	18.0	20.2	2.6	7.0	0.4	—	3.2	0.4	0.2	0.5	0.9	7.7

区分	学歴に関する人権侵害	思想・信条・宗教に関する人権侵害	仕事・職業に関する人権侵害	ひとり親であること又は両親がいないことに関する人権侵害	DV(ドメスティック・バイオレンス)・デートDVに関する人権侵害	婚姻状態(独身、事実婚など)に関する人権侵害	子どもがいないことに関する人権侵害	容姿や容貌に関する人権侵害	性的マイノリティであることに関する人権侵害	収入・財産などに関する人権侵害	新型コロナウイルス感染症等に関する人権侵害	その他	無回答
男性	5.6	3.3	6.5	2.2	1.7	2.4	1.1	5.4	0.9	4.3	0.7	1.1	5.9
女性	7.0	4.2	9.9	6.2	4.2	5.5	4.8	11.1	1.2	3.3	3.0	1.9	4.9

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、いずれも「ない」が最も多いが、女性 20～29 歳、50～59 歳、60～69 歳では 5 割を下回っており、女性 20～29 歳は、半数以上が自身または家族が何らかの「人権侵害」を受けたことがあると答えている。

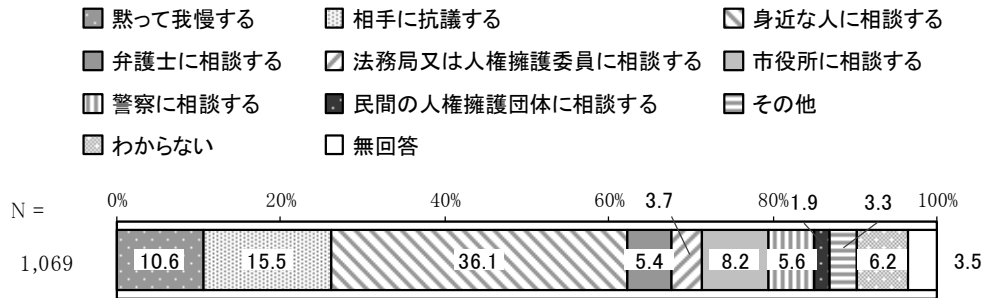
単位：％

区分	有効回答数(件)	ない	男女平等に関する人権侵害	いじめや虐待などの子どもに関する人権侵害	高齢者差別に関する人権侵害	障害者差別に関する人権侵害	同和問題に関する人権侵害	アイヌの人々に関する人権侵害	外国人差別に関する人権侵害	エイズ患者・HIV感染者に関する人権侵害	ハンセン病患者・回復者に関する人権侵害	刑を終えて出所した人に関する人権侵害	犯罪被害者などに関する人権侵害	プライバシー侵害に関する人権侵害
男性 20～29 歳	45	64.4	6.7	17.8	2.2	2.2	—	—	6.7	—	—	—	—	—
30～39 歳	48	54.2	18.8	14.6	2.1	—	2.1	—	4.2	—	2.1	—	—	12.5
40～49 歳	98	61.2	4.1	16.3	2.0	7.1	4.1	—	2.0	—	—	—	—	4.1
50～59 歳	84	66.7	4.8	8.3	2.4	1.2	—	—	2.4	—	—	—	—	6.0
60～69 歳	75	58.7	6.7	12.0	5.3	1.3	—	—	4.0	—	—	1.3	—	2.7
70～79 歳	81	65.4	4.9	11.1	7.4	4.9	—	—	2.5	—	—	1.2	1.2	11.1
80 歳以上	30	76.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.3
女性 20～29 歳	50	40.0	20.0	36.0	—	2.0	—	—	4.0	—	—	—	2.0	12.0
30～39 歳	82	50.0	15.9	20.7	1.2	11.0	1.2	—	4.9	—	—	1.2	—	7.3
40～49 歳	96	54.2	21.9	20.8	3.1	7.3	—	—	1.0	—	—	—	1.0	8.3
50～59 歳	130	48.5	23.1	23.8	1.5	6.9	—	—	3.1	0.8	—	—	0.8	10.0
60～69 歳	77	46.8	20.8	24.7	5.2	7.8	1.3	—	2.6	—	—	—	1.3	5.2
70～79 歳	82	63.4	8.5	8.5	3.7	3.7	—	—	2.4	1.2	1.2	1.2	1.2	2.4
80 歳以上	51	64.7	9.8	5.9	3.9	9.8	—	—	5.9	—	—	2.0	—	9.8

区分	学歴に関する人権侵害	思想・信条・宗教に関する人権侵害	仕事・職業に関する人権侵害	ひとり親であること又は両親がいらないことに関する人権侵害	DV(ドメスティック・バイオレンス)・デートDVに関する人権侵害	婚姻状態(独身、事実婚など)に関する人権侵害	子どもがいらないことに関する人権侵害	容姿や容貌に関する人権侵害	性的マイノリティであることに関する人権侵害	収入・財産などに関する人権侵害	新型コロナウイルス感染症等に	その他	無回答
男性 20～29 歳	2.2	2.2	4.4	—	2.2	—	—	4.4	2.2	4.4	—	—	8.9
30～39 歳	8.3	4.2	6.3	4.2	2.1	2.1	6.3	16.7	2.1	6.3	—	—	2.1
40～49 歳	6.1	2.0	8.2	3.1	2.0	2.0	1.0	7.1	—	7.1	1.0	2.0	5.1
50～59 歳	4.8	2.4	8.3	—	3.6	7.1	1.2	3.6	1.2	6.0	—	—	6.0
60～69 歳	5.3	4.0	8.0	2.7	—	1.3	—	4.0	—	1.3	1.3	1.3	5.3
70～79 歳	6.2	6.2	4.9	2.5	1.2	1.2	—	1.2	1.2	2.5	1.2	1.2	7.4
80 歳以上	6.7	—	—	3.3	—	—	—	3.3	—	—	—	3.3	6.7
女性 20～29 歳	8.0	2.0	12.0	6.0	2.0	2.0	—	18.0	4.0	4.0	6.0	2.0	4.0
30～39 歳	7.3	3.7	9.8	3.7	1.2	4.9	4.9	13.4	3.7	1.2	2.4	—	6.1
40～49 歳	8.3	4.2	12.5	5.2	8.3	6.3	7.3	16.7	—	4.2	1.0	2.1	2.1
50～59 歳	6.9	5.4	11.5	9.2	4.6	9.2	9.2	13.1	—	4.6	3.8	2.3	3.1
60～69 歳	7.8	7.8	9.1	6.5	6.5	5.2	5.2	6.5	1.3	5.2	3.9	2.6	3.9
70～79 歳	6.1	2.4	6.1	3.7	2.4	3.7	—	2.4	1.2	—	—	2.4	11.0
80 歳以上	3.9	2.0	5.9	7.8	2.0	2.0	—	5.9	—	3.9	5.9	2.0	5.9

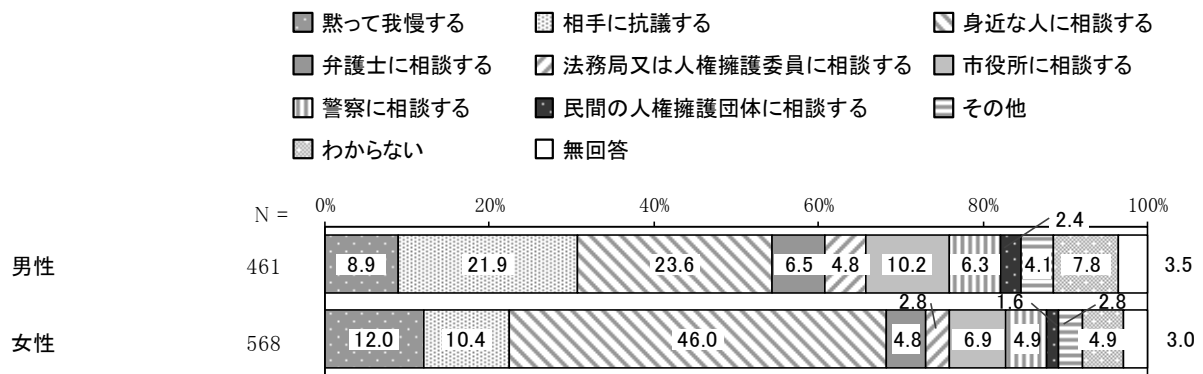
問7 もし、あなた自身や御家族の人権が侵害された場合、あなたは、まず初めにどのような対応を取りますか。(〇は1つ)

「身近な人に相談する」が36.1%と最も多く、次いで「相手に抗議する」が15.5%、「黙って我慢する」が10.6%となっている。



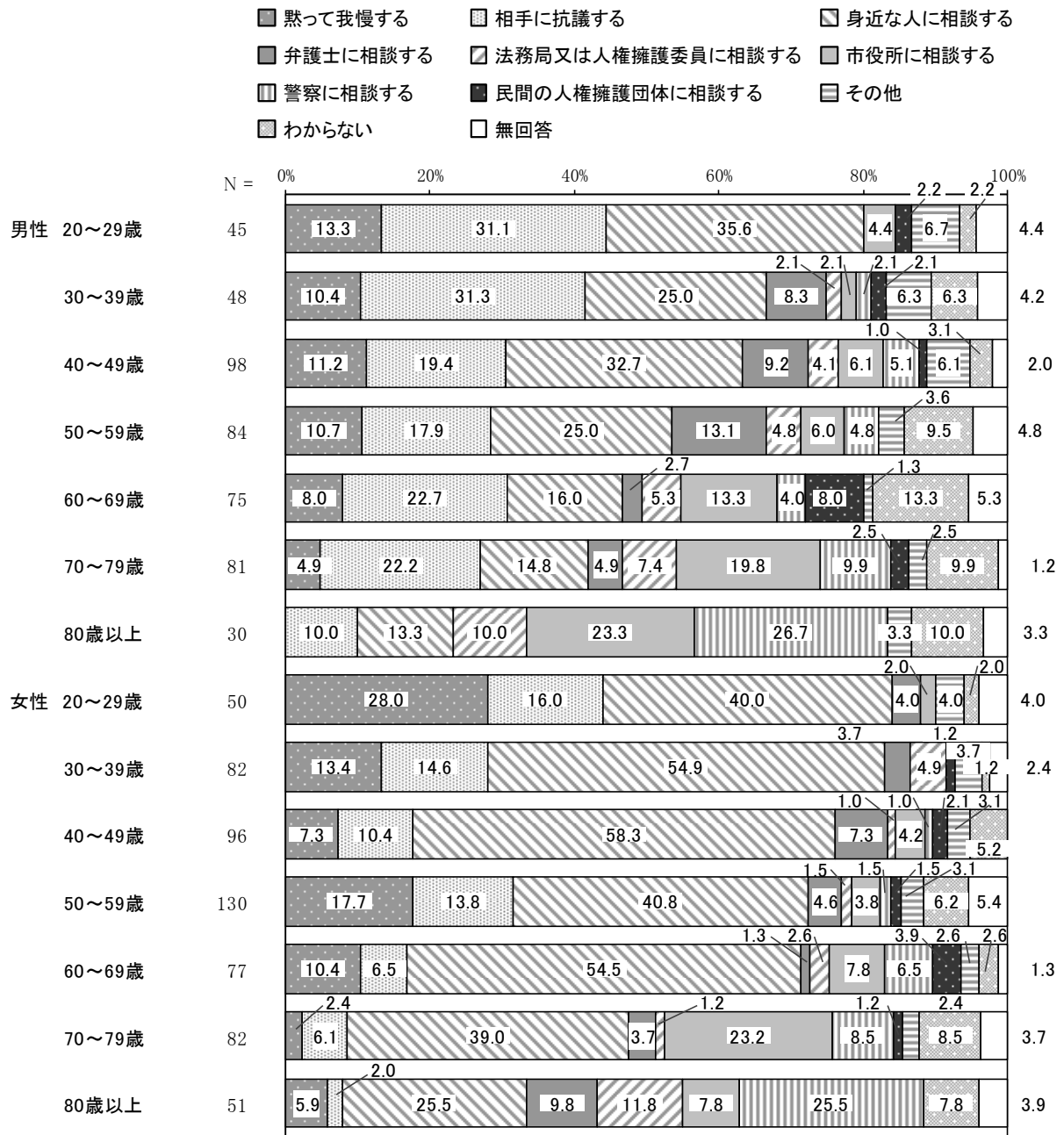
【性別】

性別でみると、男女ともに「身近な人に相談する」が最も多く、次いで男性では「相手に抗議する」が、女性では「黙って我慢する」が多くなっている。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性 30～39 歳、40～49 歳、60～69 歳で「身近な人に相談する」が 5 割を超えている。また、女性 20～29 歳で「黙って我慢する」が 28.0%と特に高くなっている。



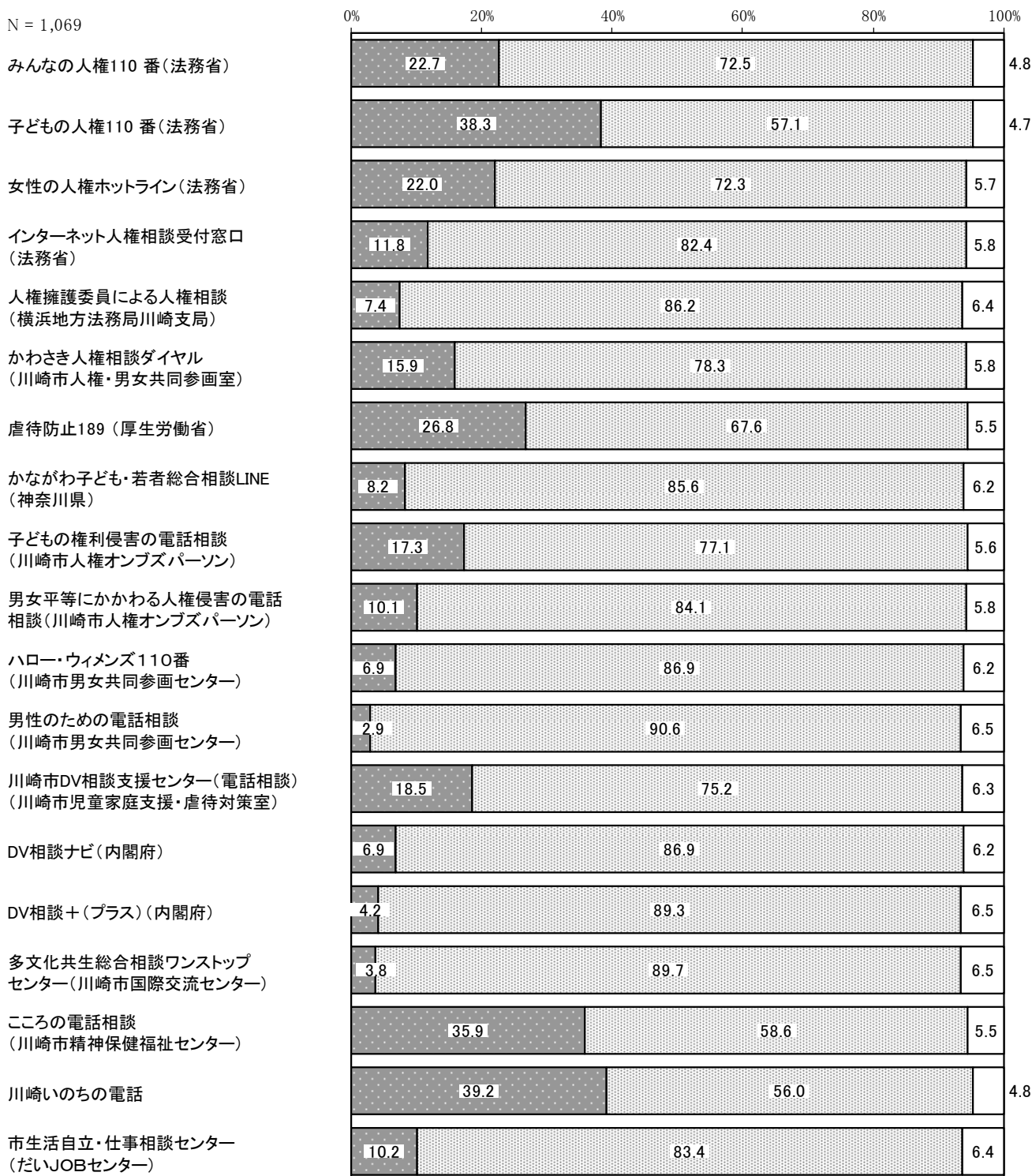
4 人権相談窓口について

問8 あなたは、国や市の機関のさまざまな人権相談窓口について知っていますか。
(それぞれ○は1つ)

『子どもの人権110番(法務省)』『川崎いのちの電話』で「知っている」の割合が高く、約4割となっている。

■ 知っている ■ 知らない □ 無回答

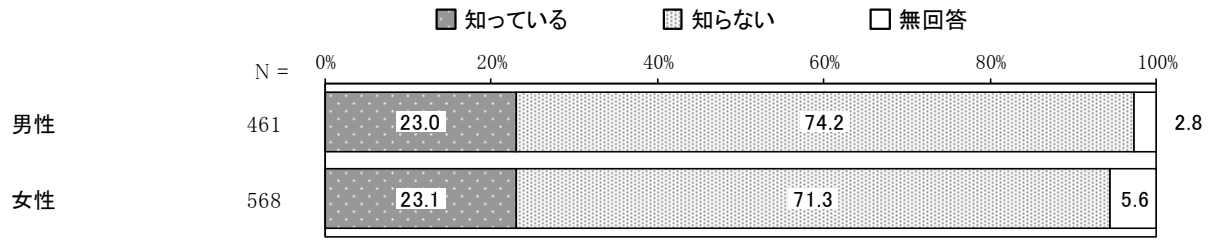
N = 1,069



みんなの人権 110 番（法務省）

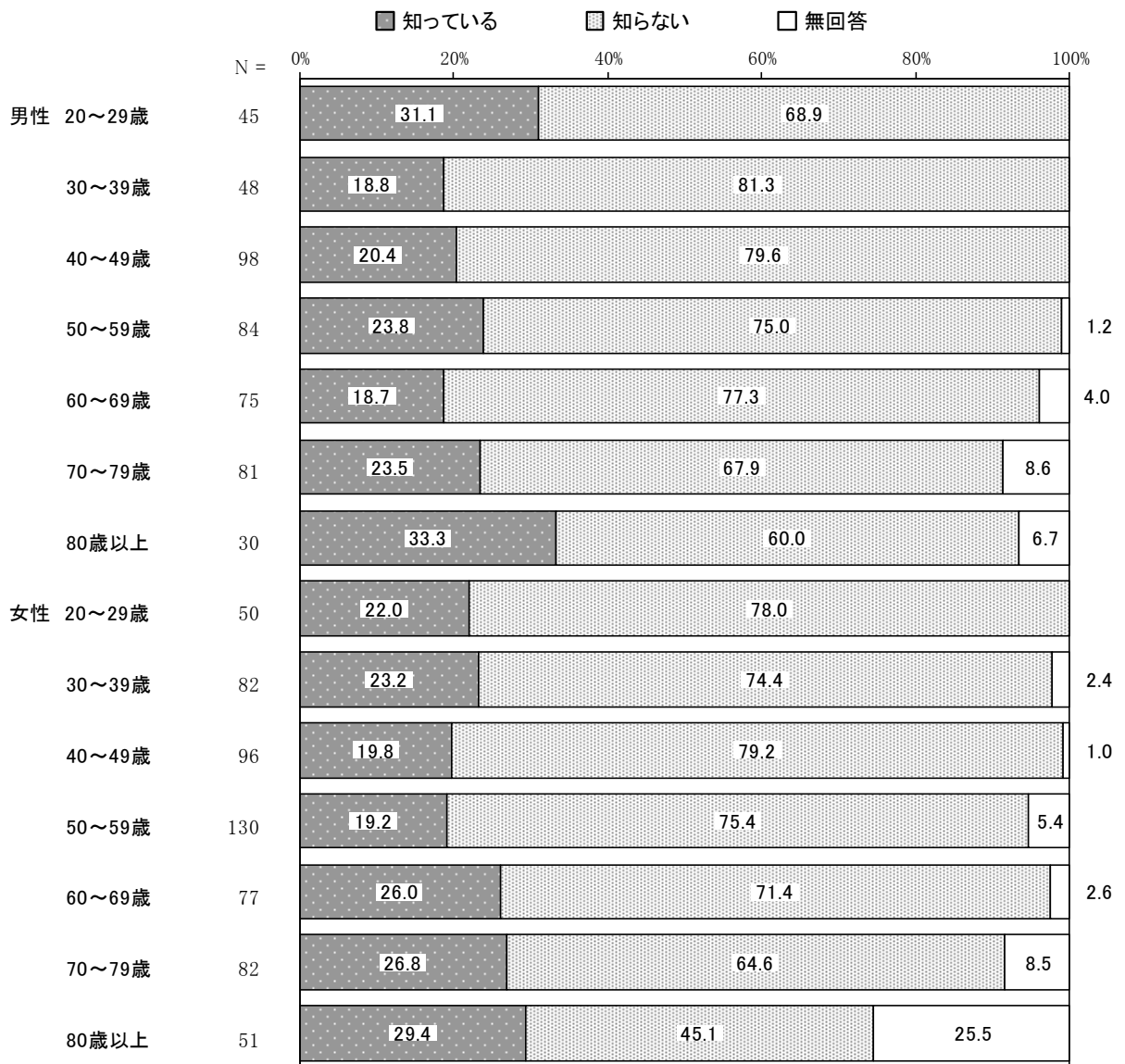
【性別】

性別でみると、男女で大きな差は見られない。



【性・年齢別】

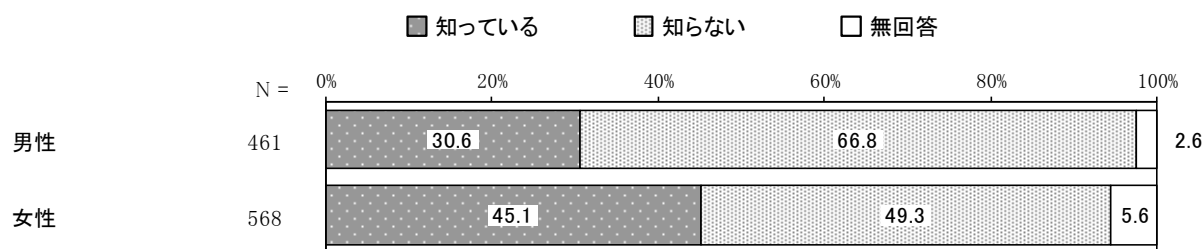
性・年齢別でみると、全体的に「知らない」が高いが、男性 20～29 歳と 80 歳以上では「知っている」が 3 割を超えている。



子どもの人権 110 番（法務省）

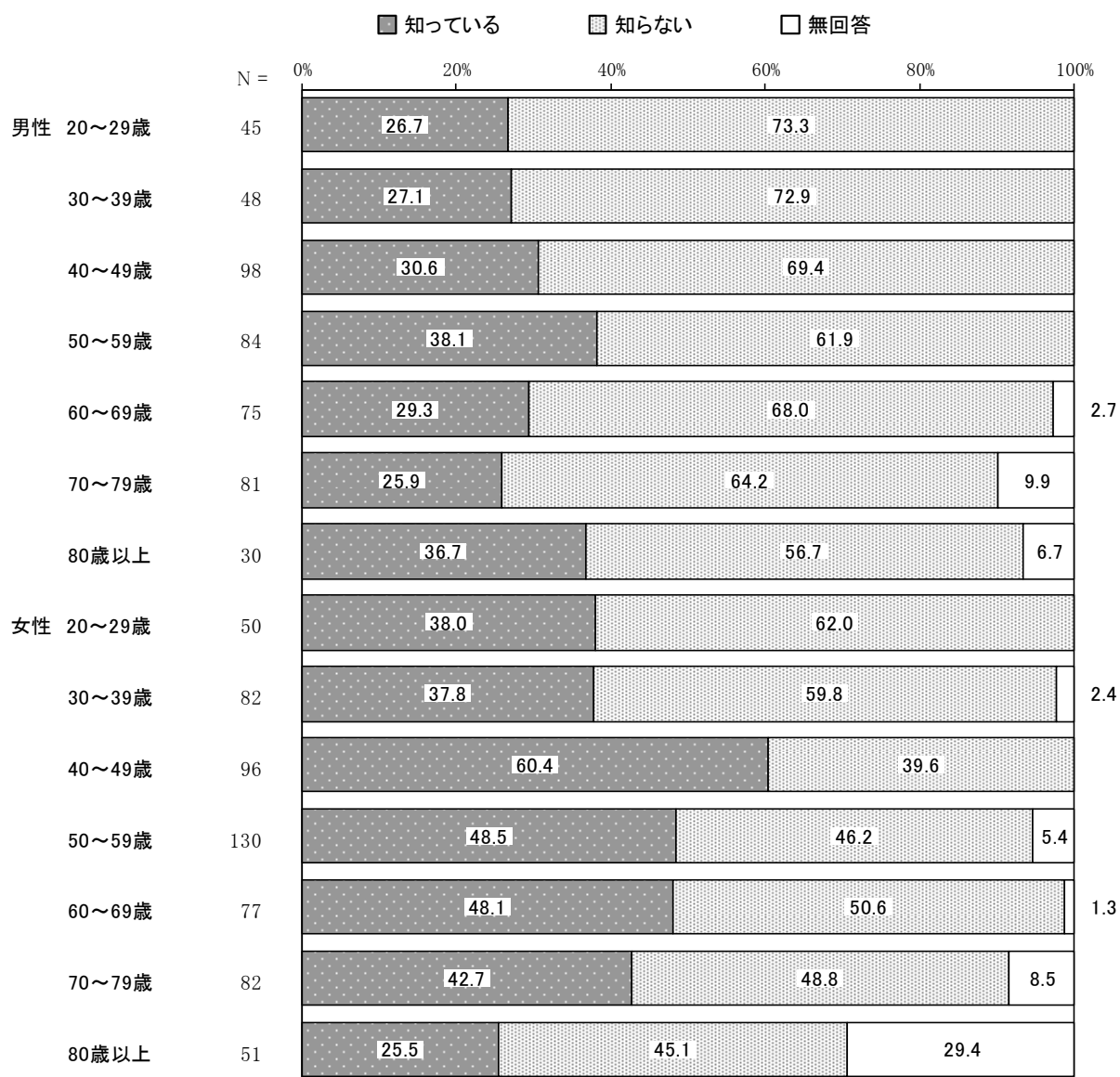
【性別】

性別でみると、女性の方が男性よりも「知っている」が 14.5 ポイント高くなっている。



【性・年齢別】

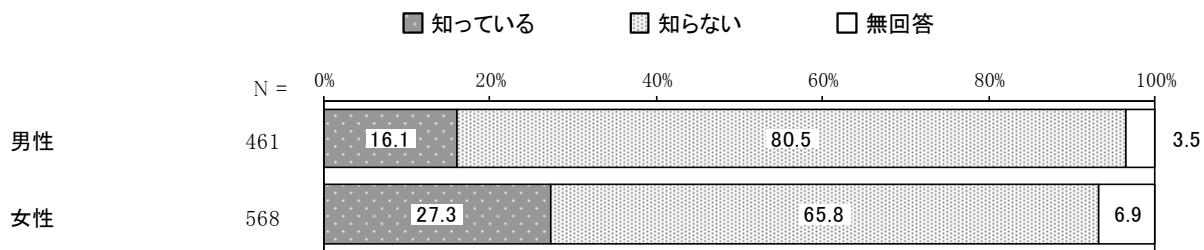
性・年齢別でみると、他に比べ、男性 20～29 歳、30～39 歳で「知らない」が 7 割を超え、高くなっている。



女性の人権ホットライン（法務省）

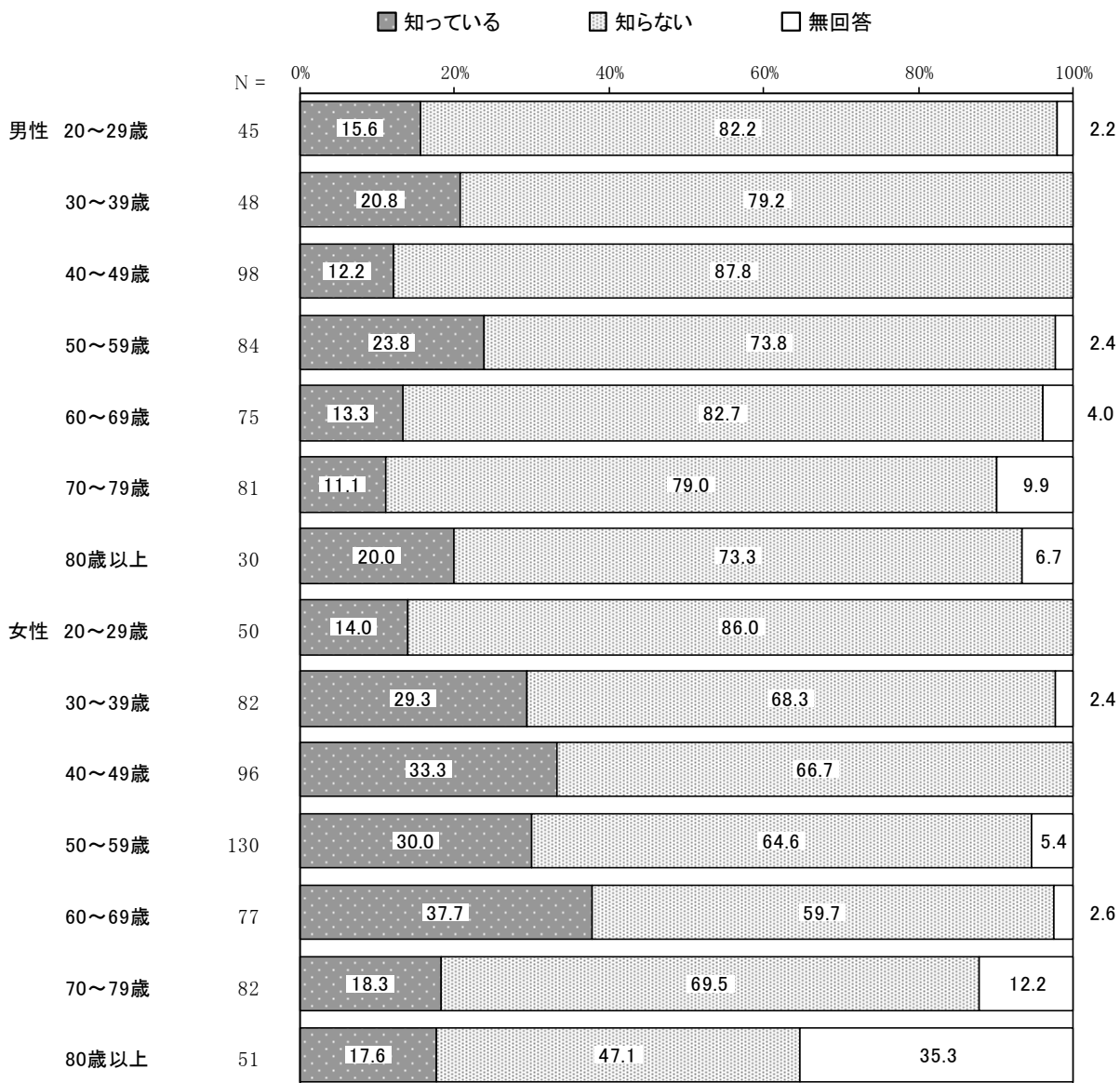
【性別】

性別でみると、女性の方が男性よりも「知っている」が11.2ポイント高くなっている。



【性・年齢別】

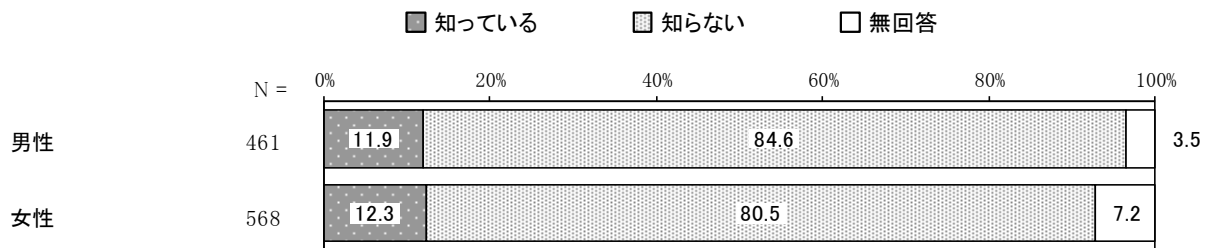
性・年齢別でみると、女性の方が男性よりも「知っている」が高いものの、女性20～29歳では15%を割っており、低くなっている。



インターネット人権相談受付窓口（法務省）

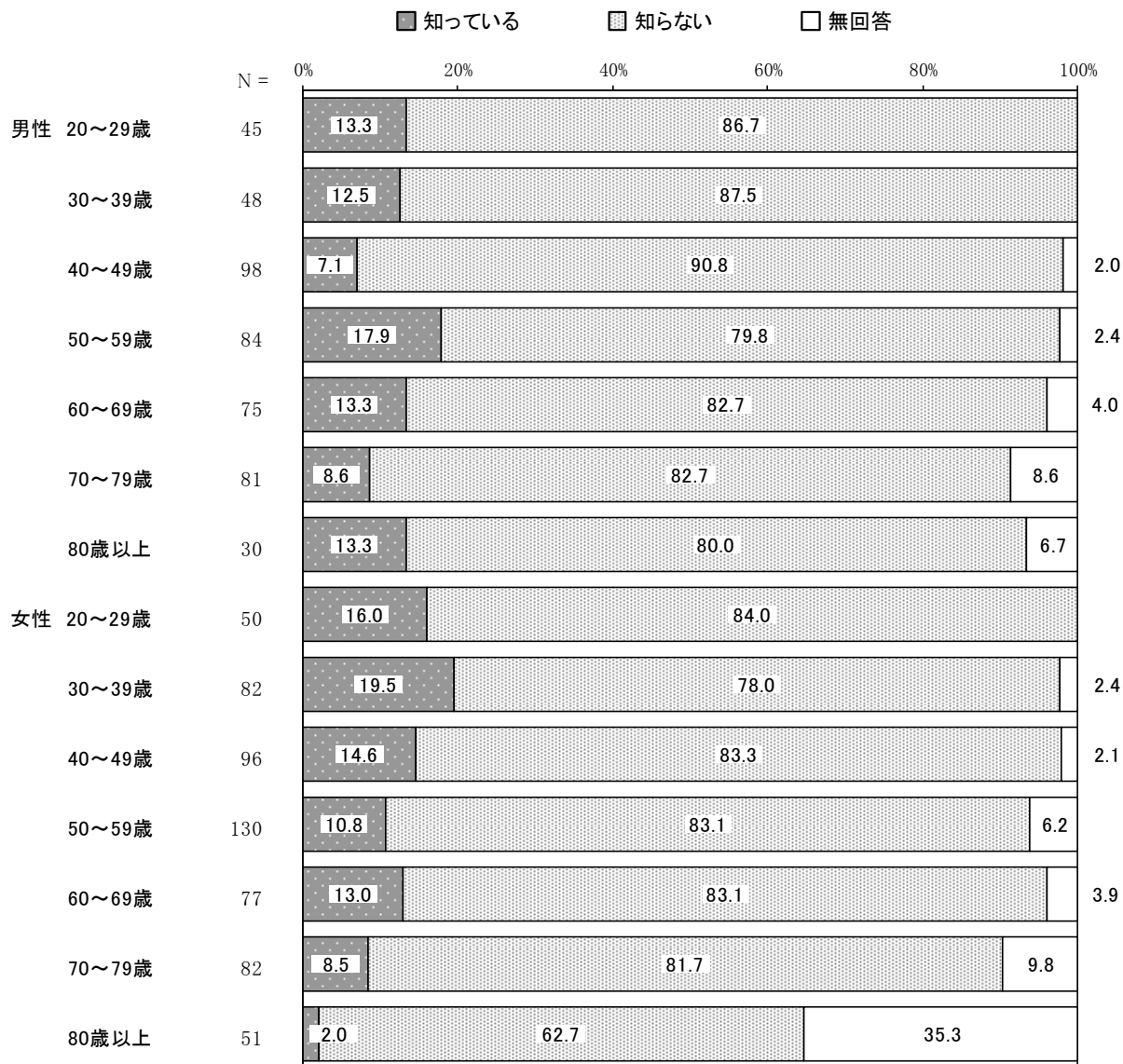
【性別】

性別でみると、男女で大きな差は見られない。



【性・年齢別】

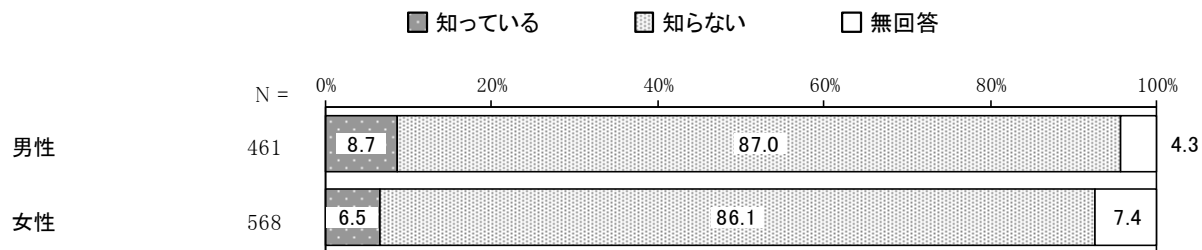
性・年齢別でみると、全体的に「知らない」が高いが、特に男性 40～49 歳で唯一 9 割を超えている。



人権擁護委員による人権相談（横浜地方法務局川崎支局）

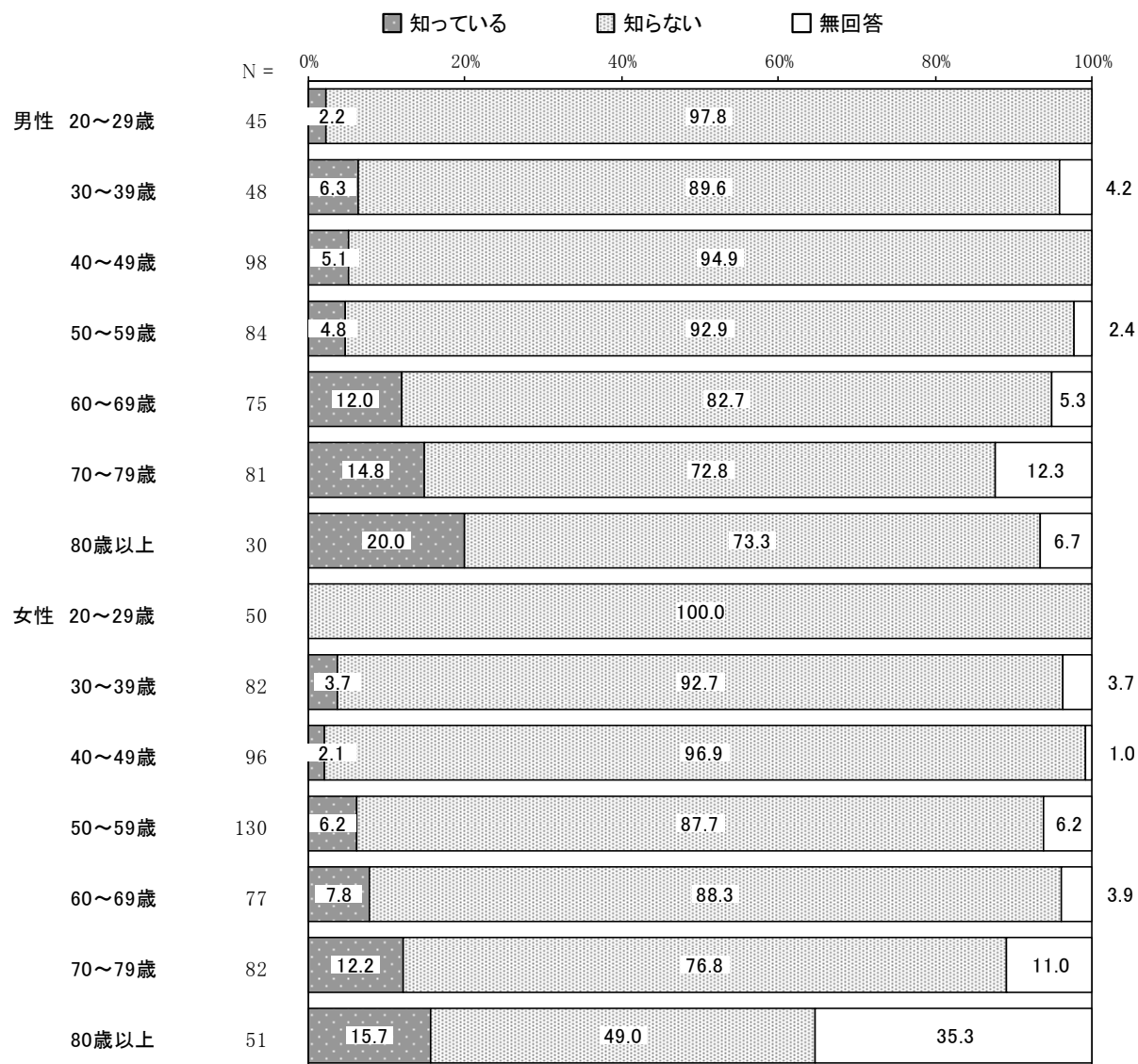
【性別】

性別でみると、男女で大きな差は見られない。



【性・年齢別】

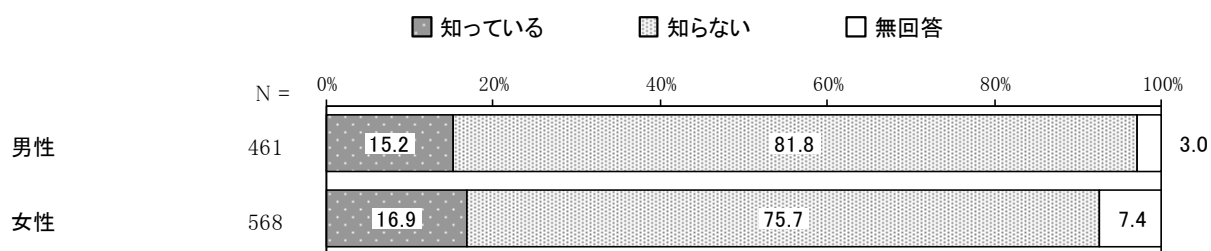
性・年齢別でみると、男女ともに年齢が上がるほど「知っている」が高くなる傾向がある。



かわさき人権相談ダイヤル（川崎市人権・男女共同参画室）

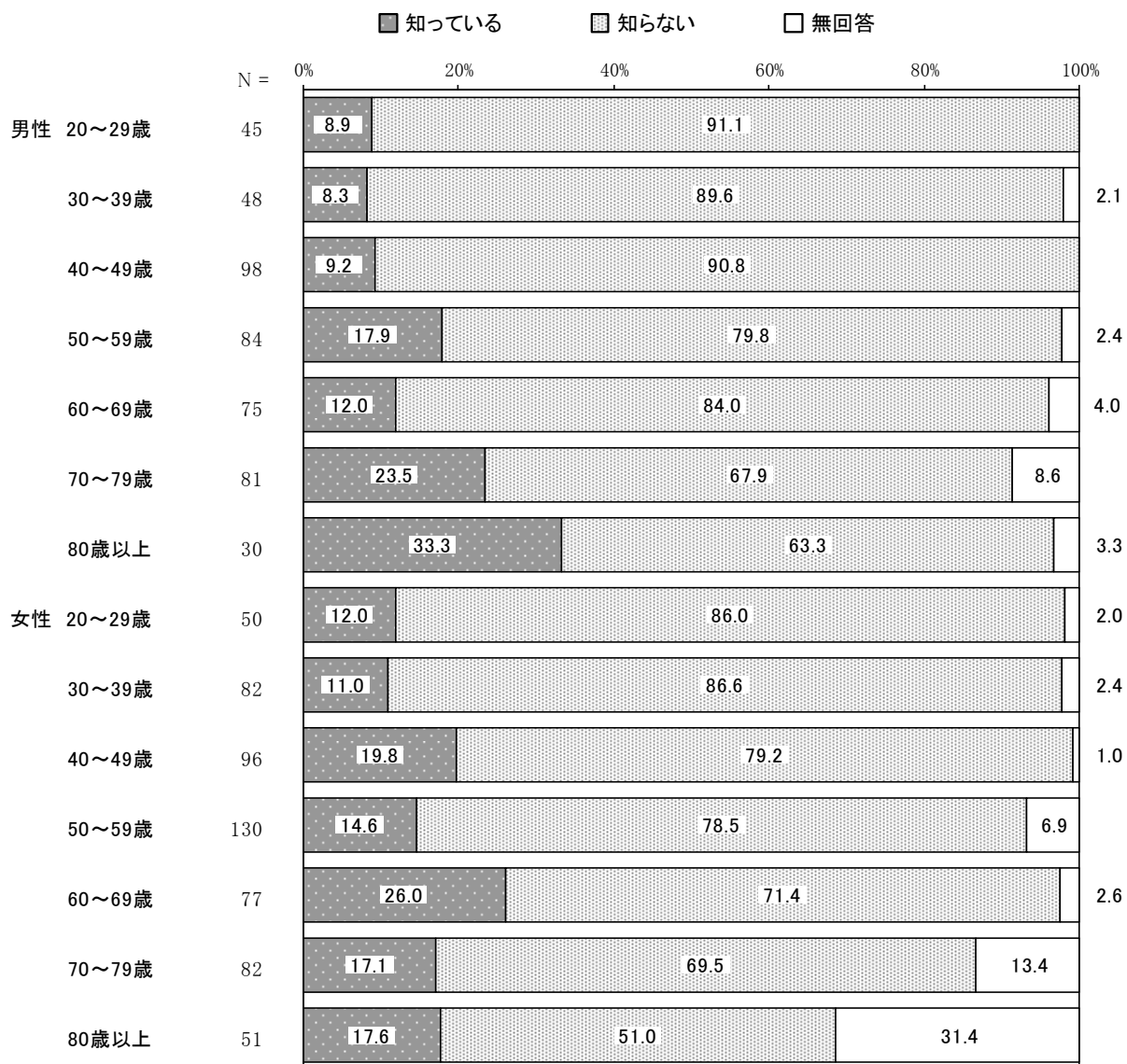
【性別】

性別でみると、男女で大きな差は見られない。



【性・年齢別】

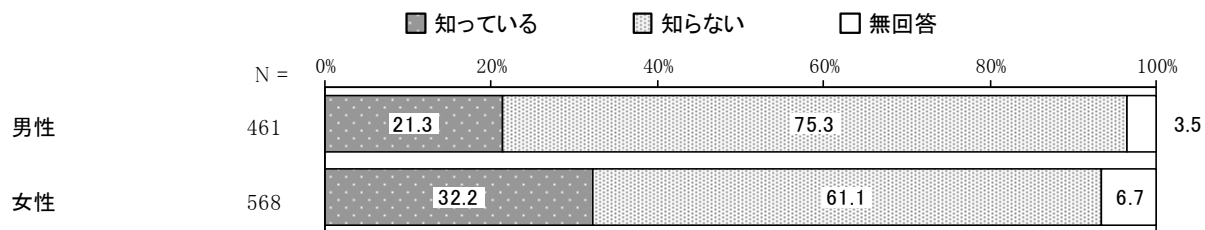
性・年齢別でみると、全体的に「知らない」が高いが、男性 80 歳以上では唯一「知っている」が 3 割を超えている。



虐待防止 189 (厚生労働省)

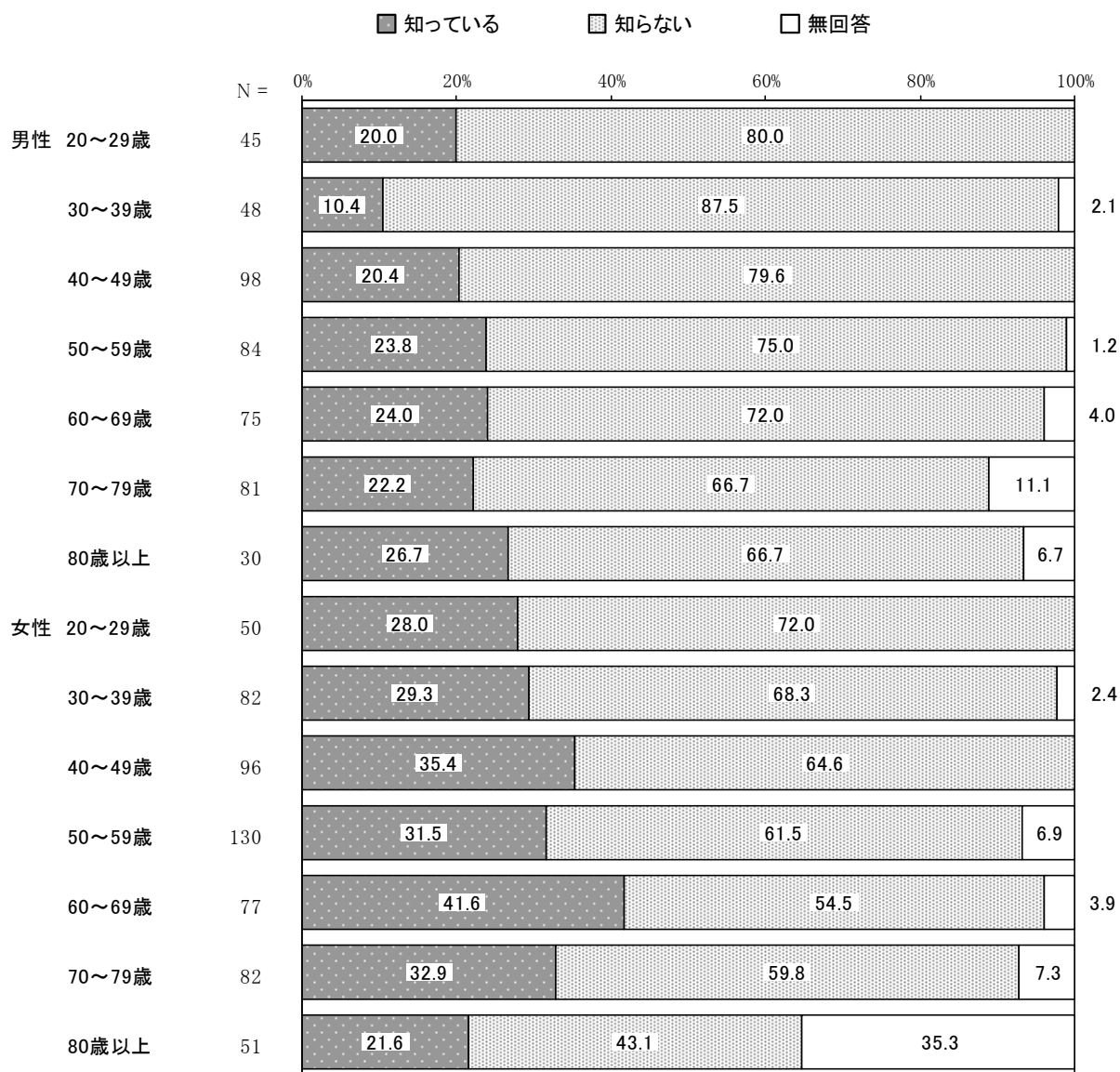
【性別】

性別でみると、女性の方が男性よりも「知っている」が10.9ポイント高い。



【性・年齢別】

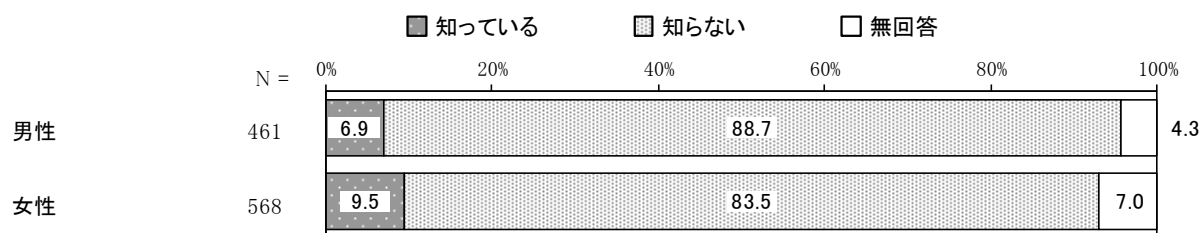
性・年齢別でみると、男性30～39歳で「知っている」が約1割と他と比べて低い。



かながわ子ども・若者総合相談 LINE（神奈川県）

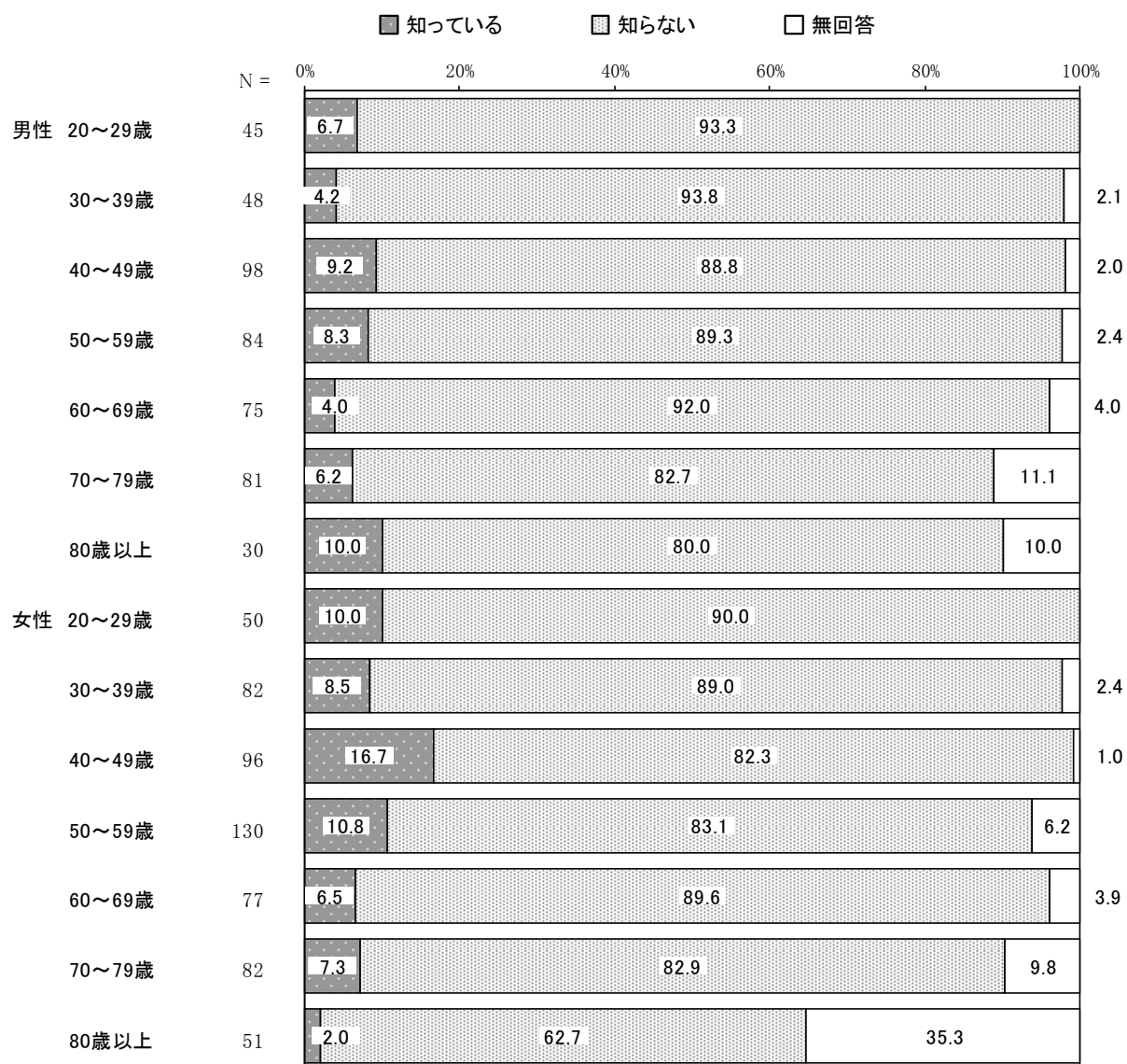
【性別】

性別でみると、男女で大きな差は見られない。



【性・年齢別】

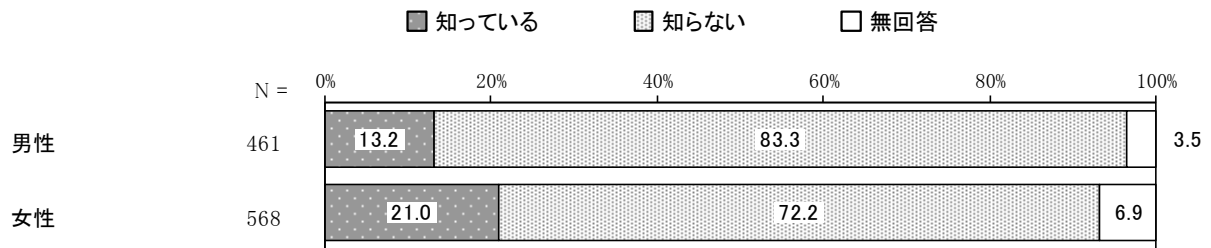
性・年齢別でみると、全体的に「知らない」が高いが、女性 40～49 歳で「知っている」が他と比べてやや高い。



子どもの権利侵害の電話相談（川崎市人権オンブズパーソン）

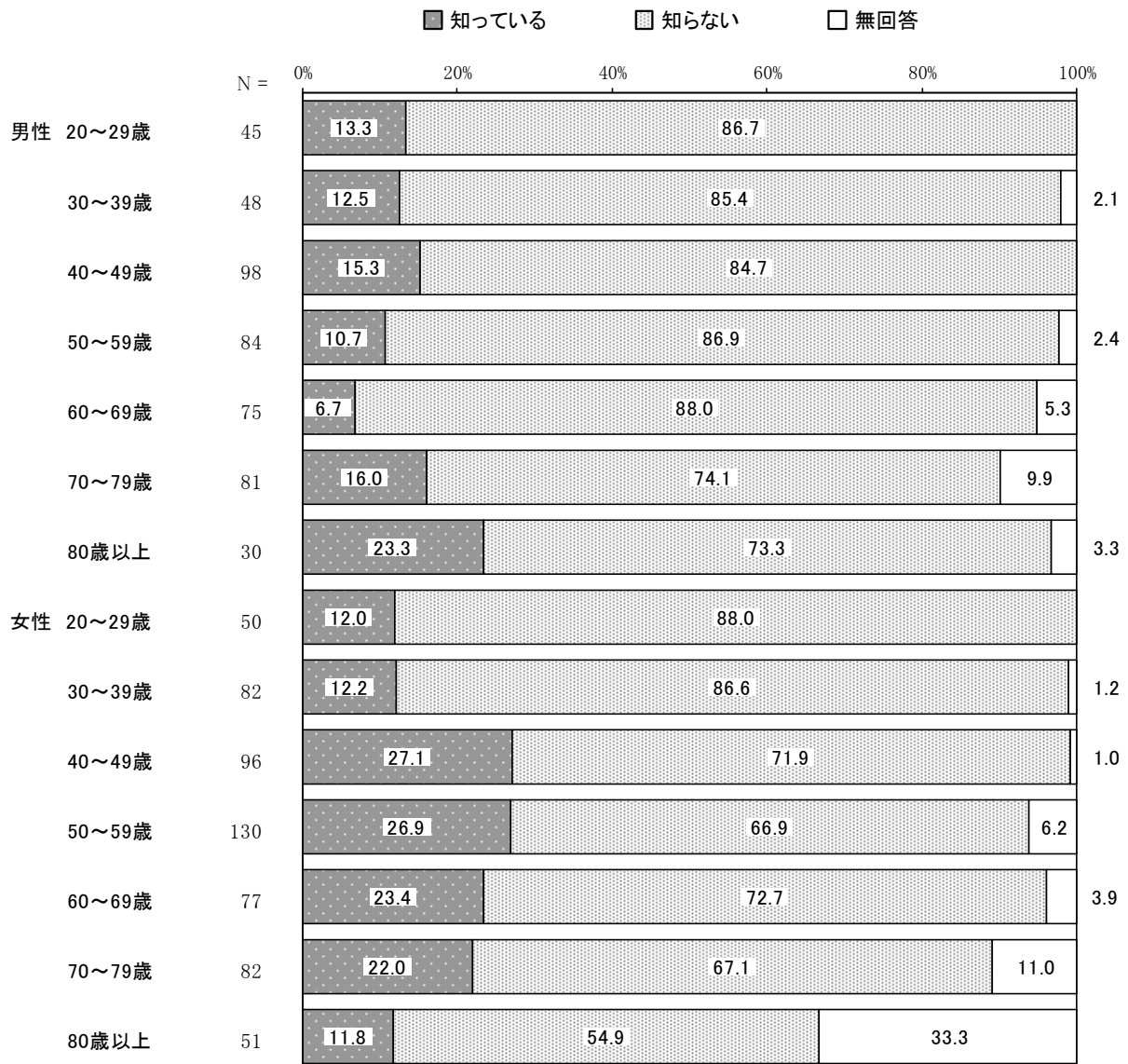
【性別】

性別でみると、女性の方が男性よりも「知っている」が7.8ポイント高い。



【性・年齢別】

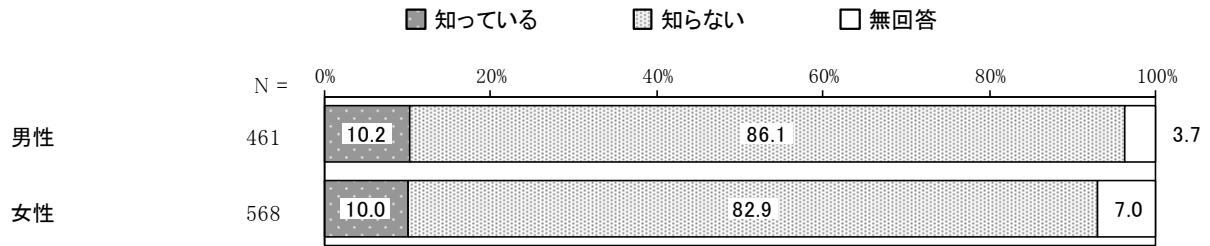
性・年齢別でみると、全体的に「知っている」が低い、特に男性60～69歳で最も低い。



男女平等にかかわる人権侵害の電話相談（川崎市人権オンブズパーソン）

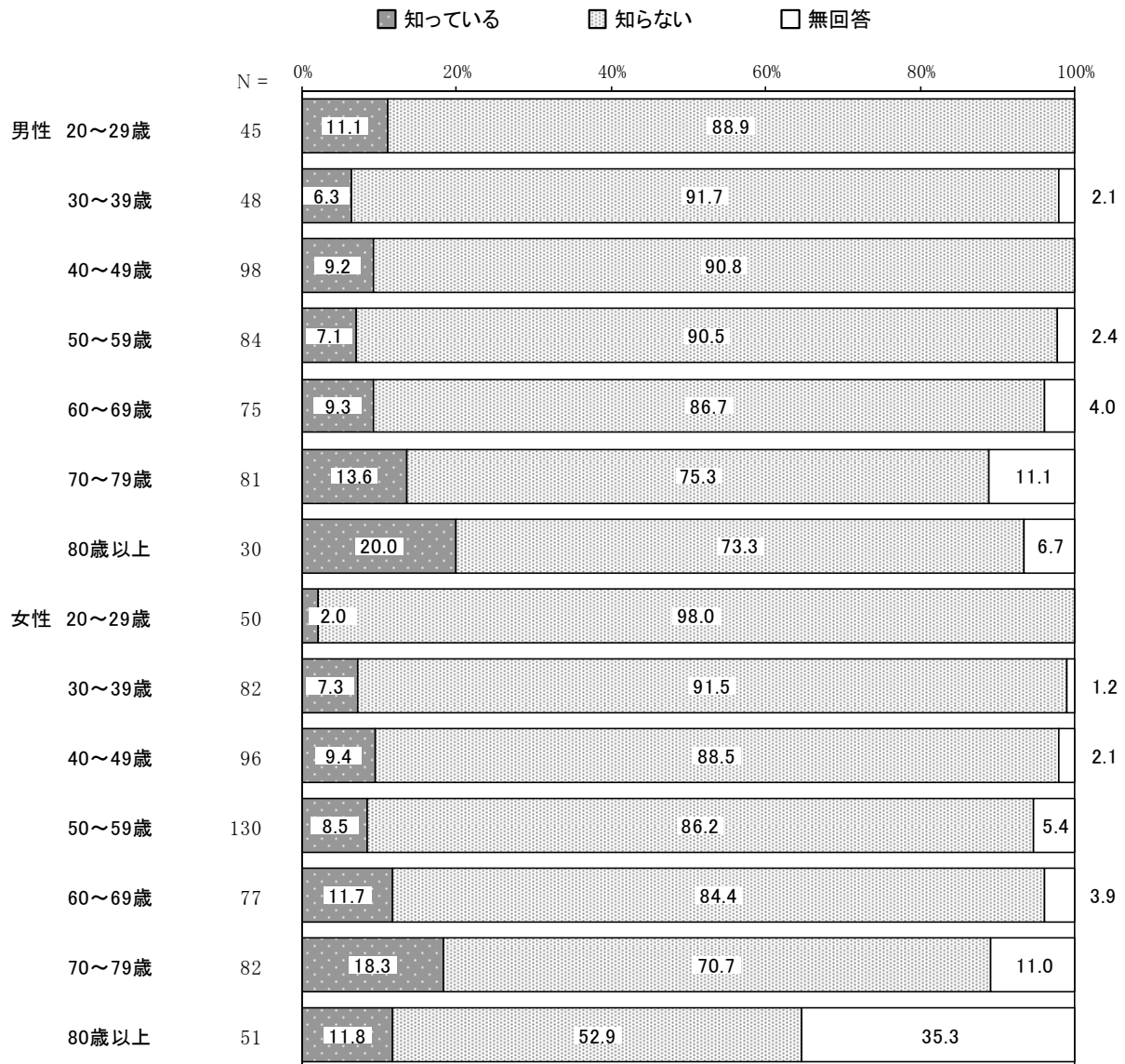
【性別】

性別でみると、男女で大きな差は見られない。



【性・年齢別】

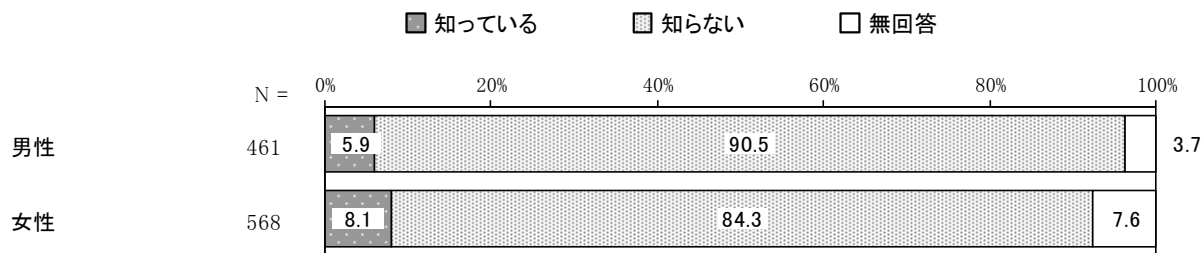
性・年齢別でみると、男性、女性ともに「知っている」の割合が、年齢とともにやや高くなる傾向がある。



ハロー・ウィメンズ 110 番（川崎市男女共同参画センター）

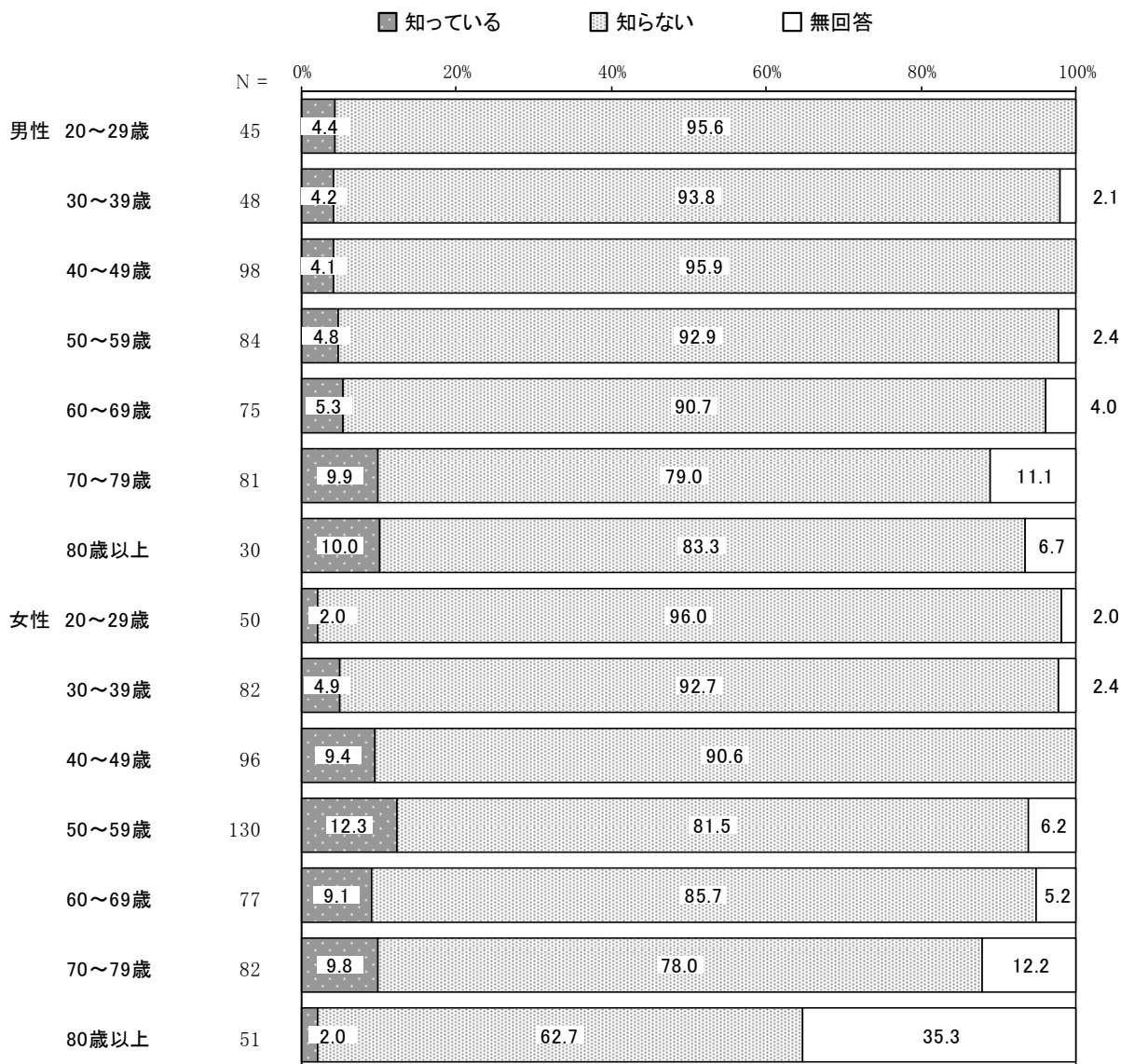
【性別】

性別でみると、男女で大きな差は見られない。



【性・年齢別】

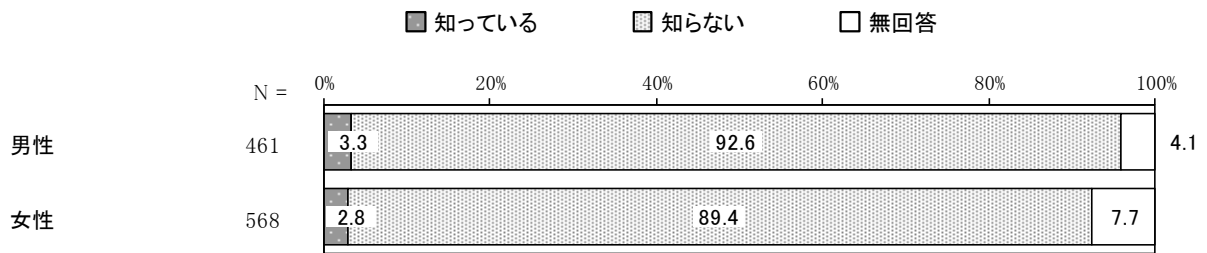
性・年齢別でみると、女性 50～59 歳で唯一「知っている」が 1 割を超えているが、女性 20～29 歳と 80 歳以上では 2.0%と低い。



男性のための電話相談（川崎市男女共同参画センター）

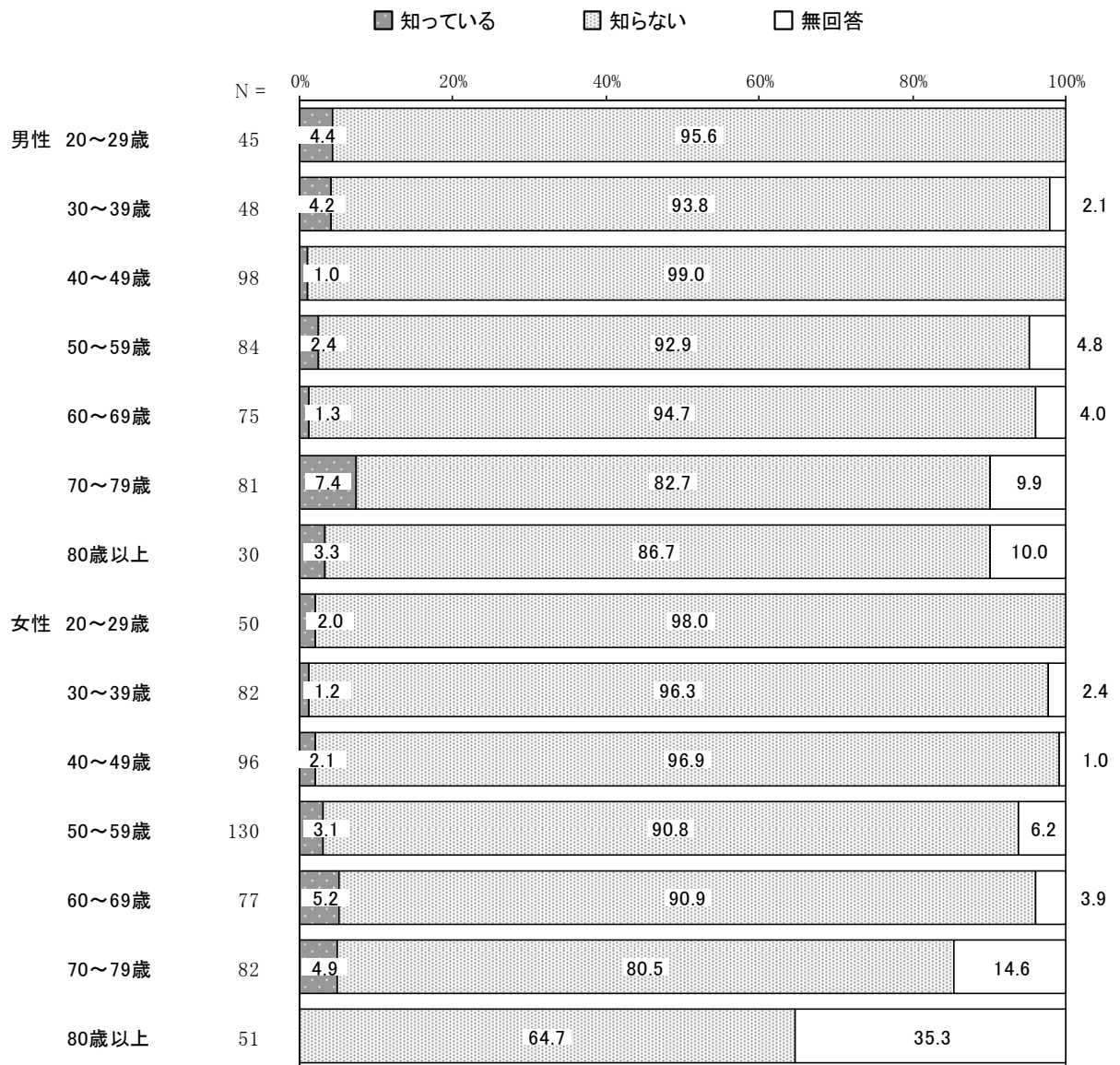
【性別】

性別でみると、男女で大きな差は見られない。



【性・年齢別】

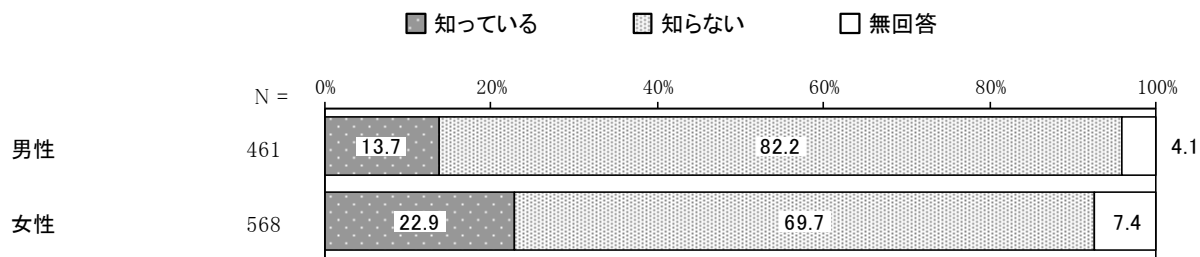
性・年齢別でみると、いずれも「知っている」は1割に満たず低い。



川崎市DV相談支援センター（電話相談）（川崎市児童家庭支援・虐待対策室）

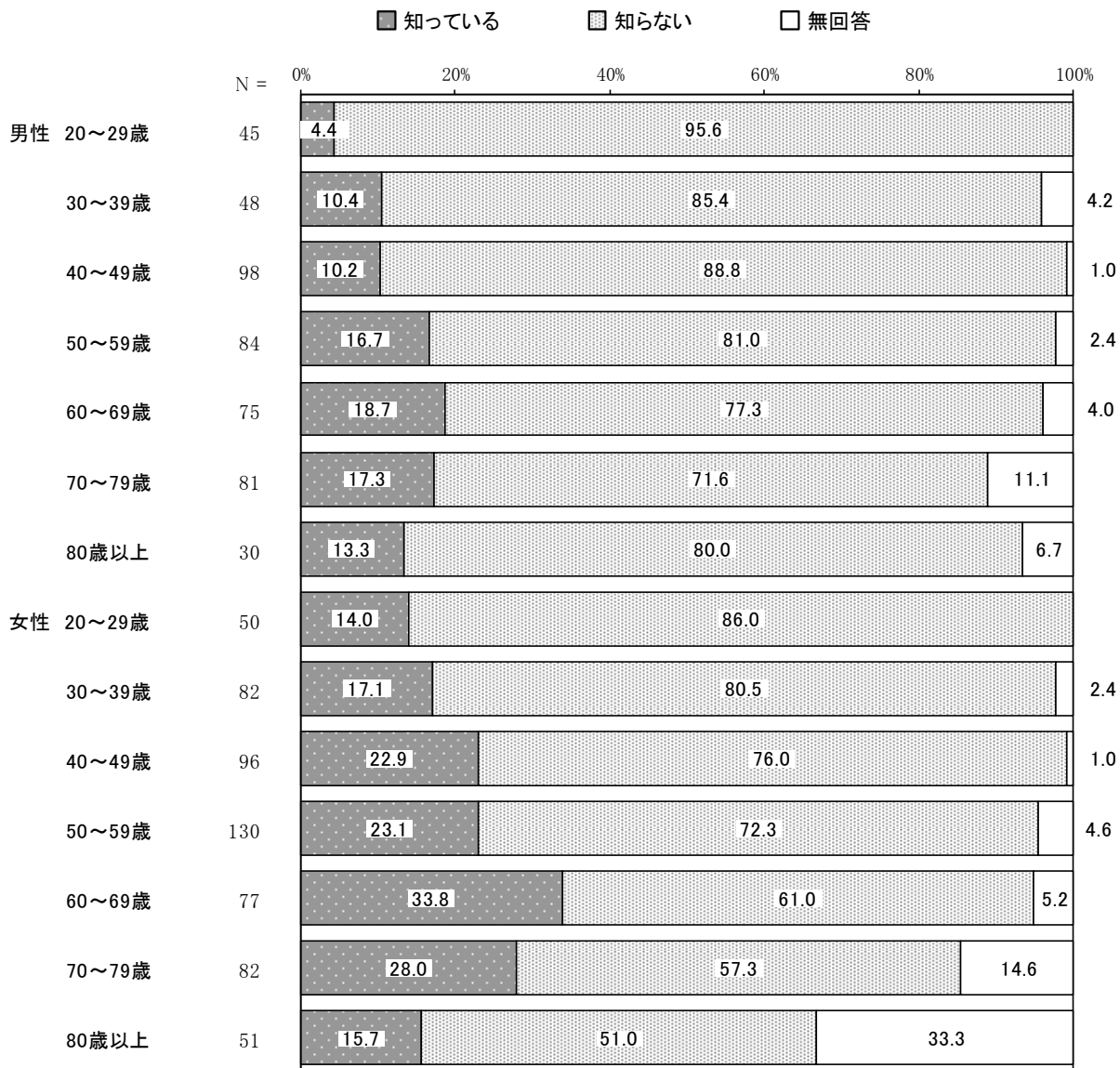
【性別】

性別でみると、女性の方が男性よりも「知っている」が9.2ポイント高い。



【性・年齢別】

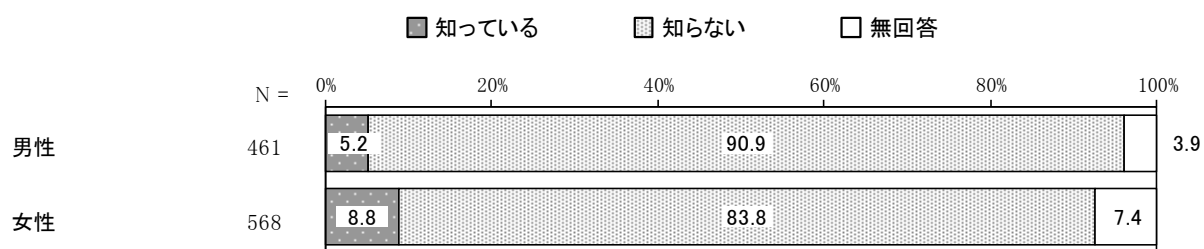
性・年齢別でみると、女性60～69歳で唯一「知っている」が3割を超えているが、一方で男性20～29歳では4.4%と特に低い。



DV相談ナビ（内閣府）

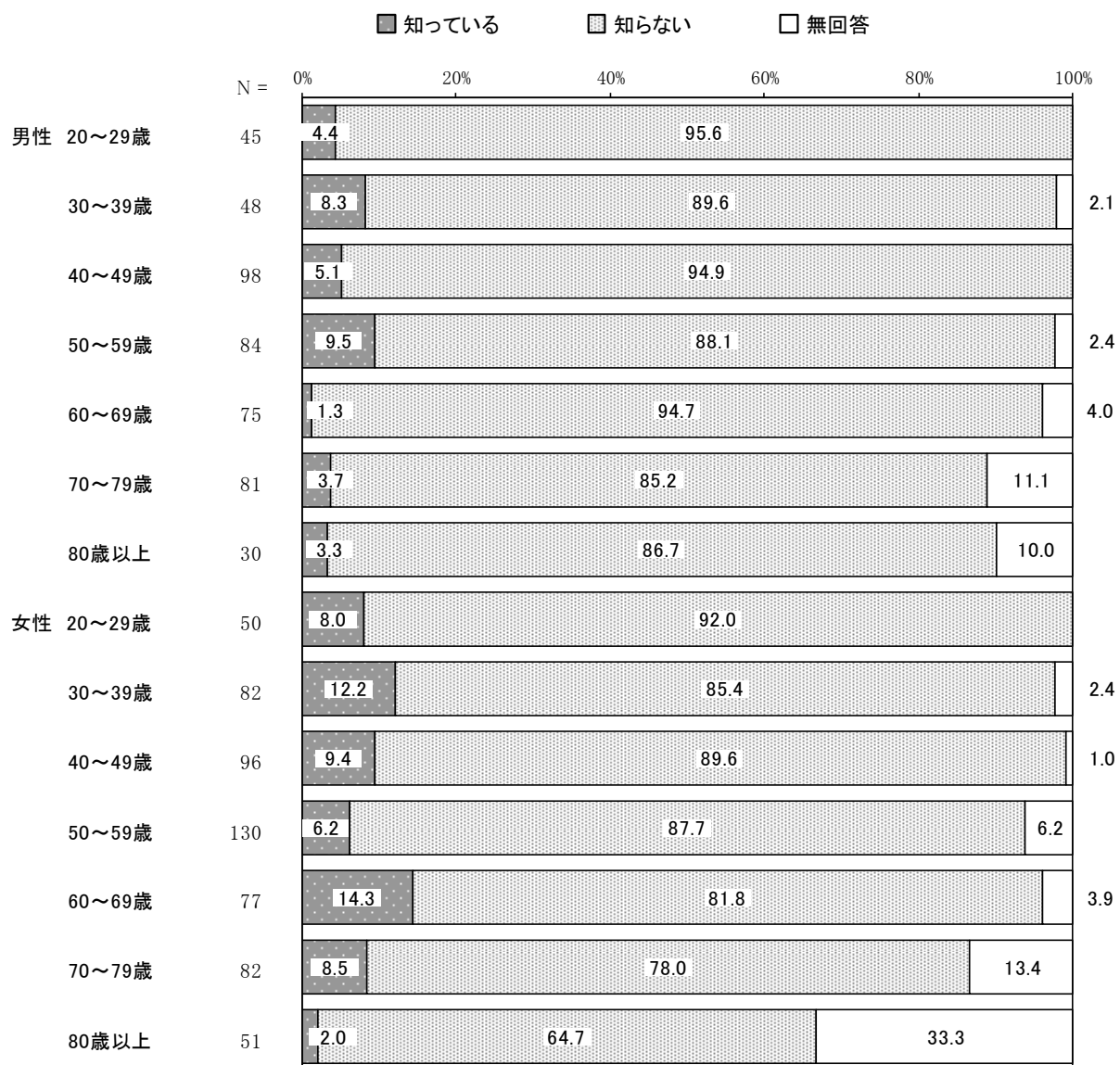
【性別】

性別でみると、女性の方が男性よりも「知っている」が3.6ポイント高い。



【性・年齢別】

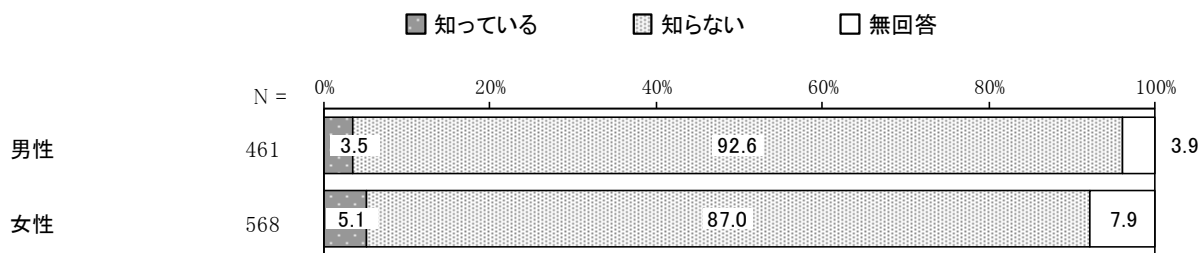
性・年齢別でみると、全体的に「知らない」が高いが、女性 30～39歳、60～69歳では「知っている」が1割を超えている。



DV相談+（プラス）（内閣府）

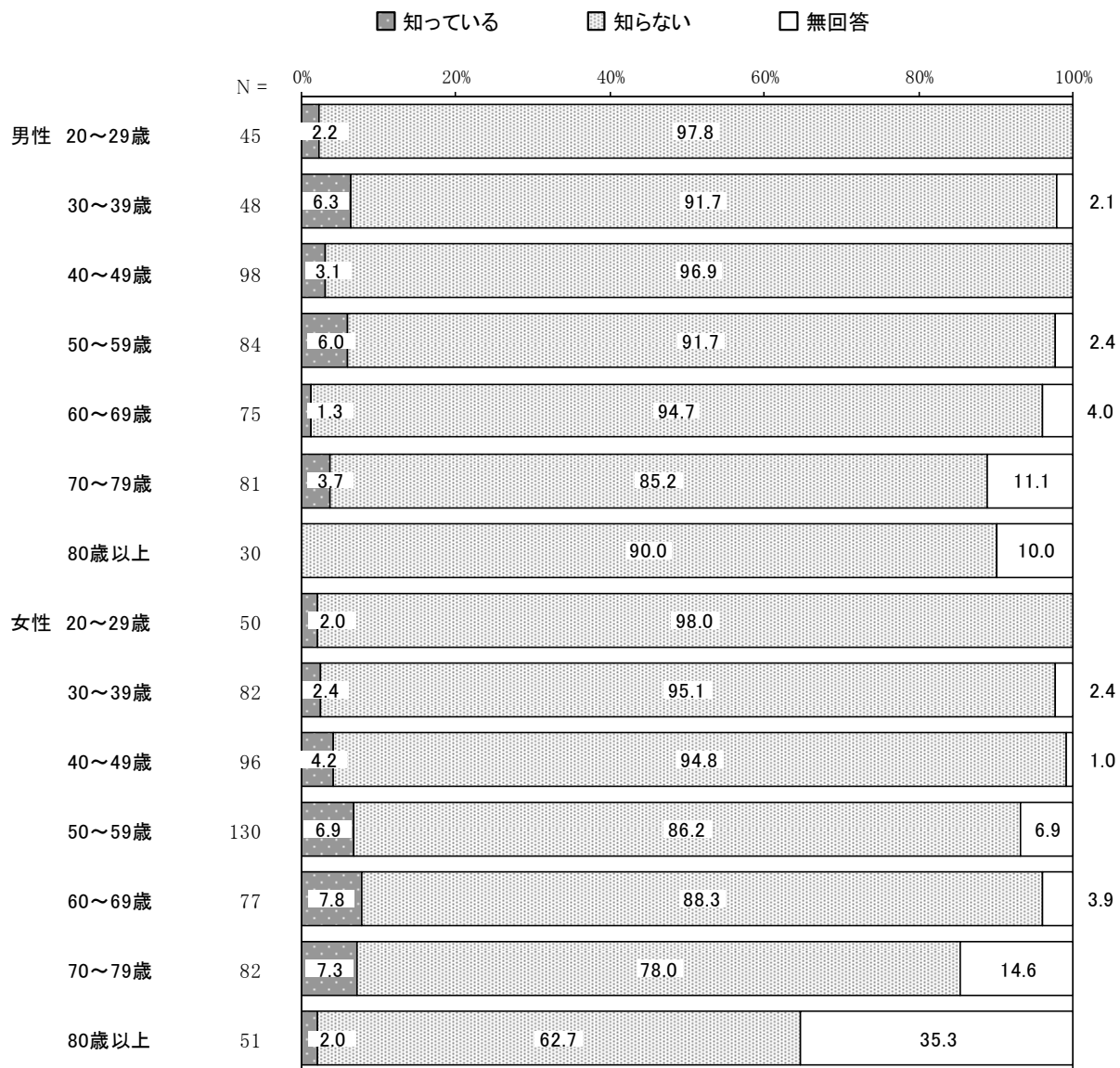
【性別】

性別でみると、男女で大きな差は見られない。



【性・年齢別】

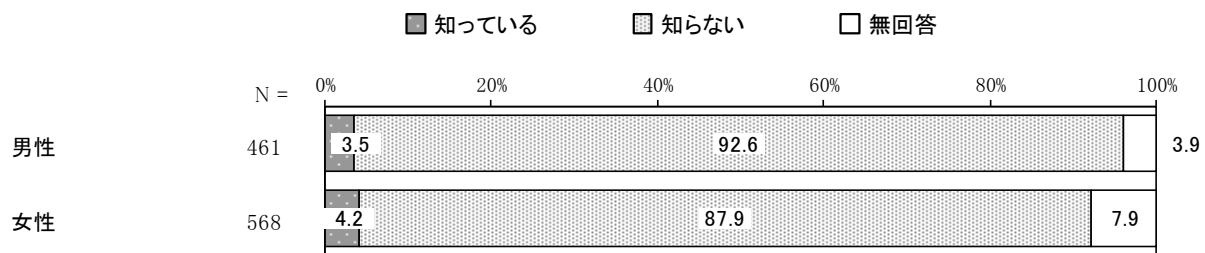
性・年齢別でみると、いずれも「知っている」は1割に満たず低い。



多文化共生総合相談ワンストップセンター（川崎市国際交流センター）

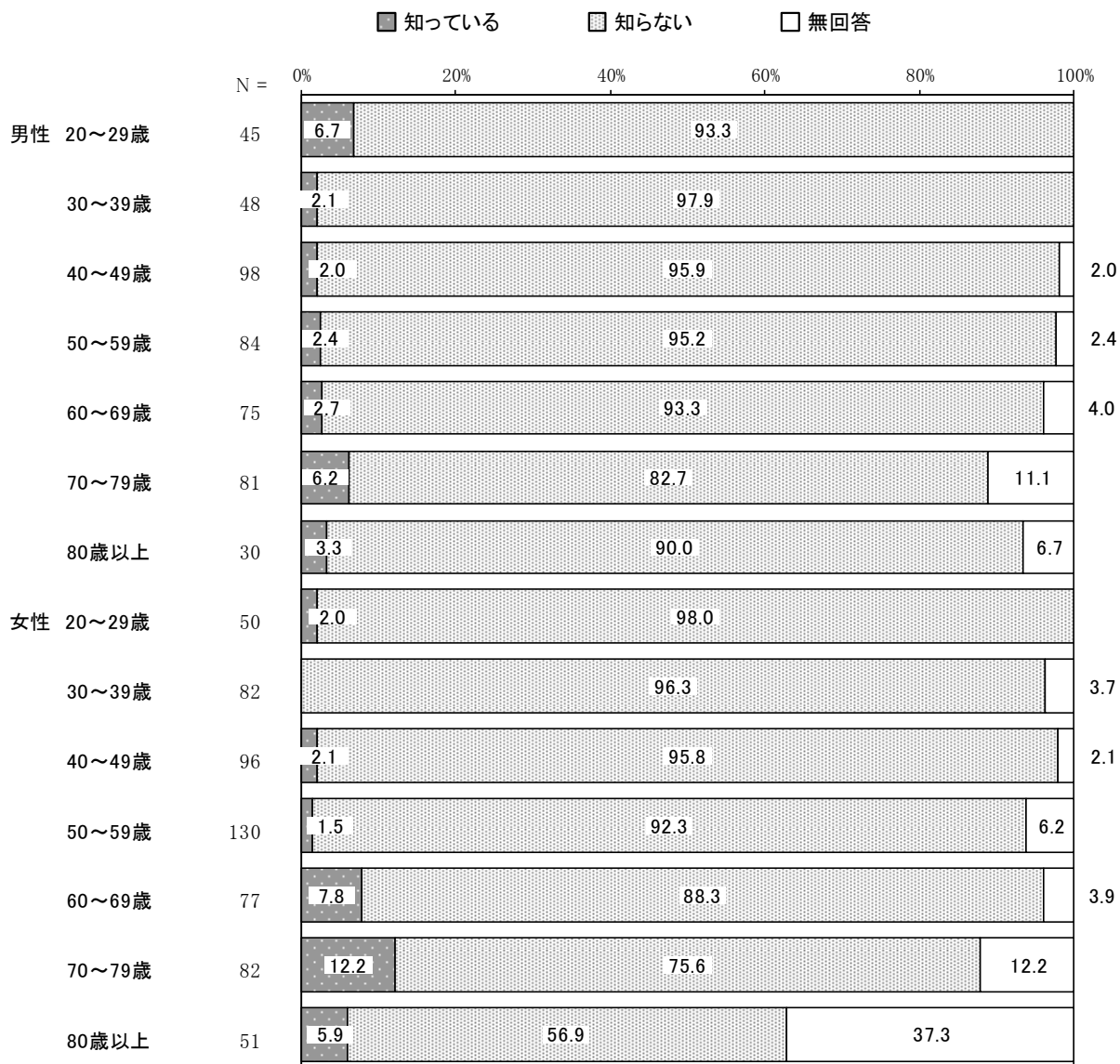
【性別】

性別でみると、男女で大きな差は見られない。



【性・年齢別】

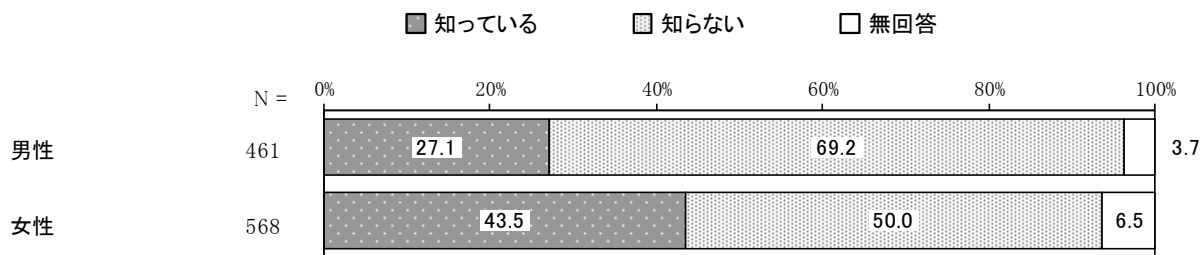
性・年齢別でみると、全体的に「知らない」が高いが、女性 70～79 歳で唯一「知っている」が 1 割を超えている。



こころの電話相談（川崎市精神保健福祉センター）

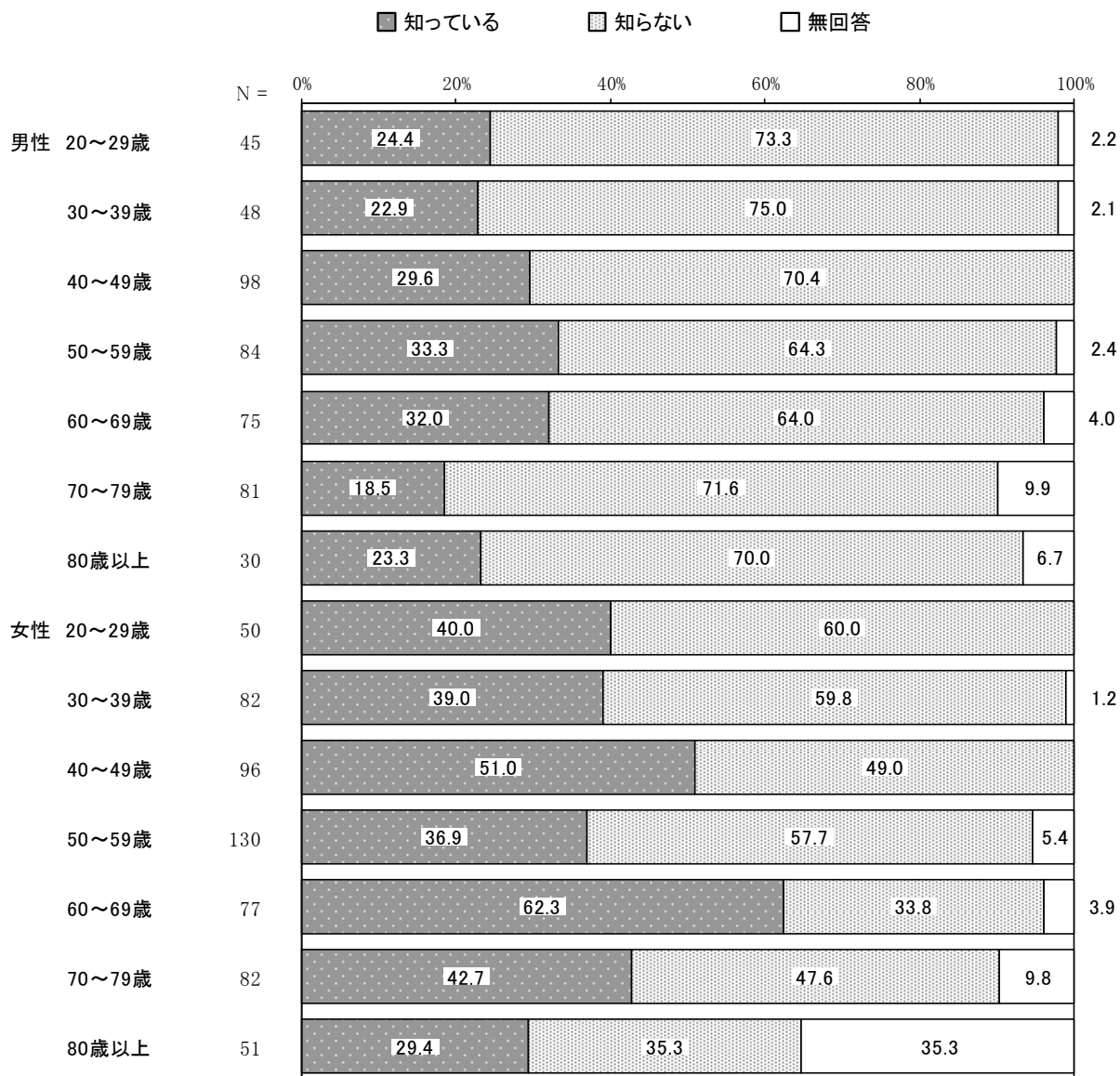
【性別】

性別でみると、女性の方が男性よりも「知っている」が16.4ポイント高い。



【性・年齢別】

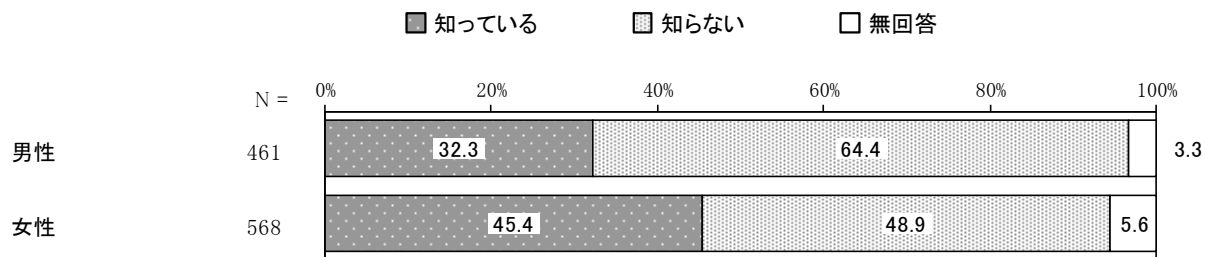
性・年齢別でみると、女性40～49歳、60～69歳では「知っている」が「知らない」よりも高い。



川崎いのちの電話

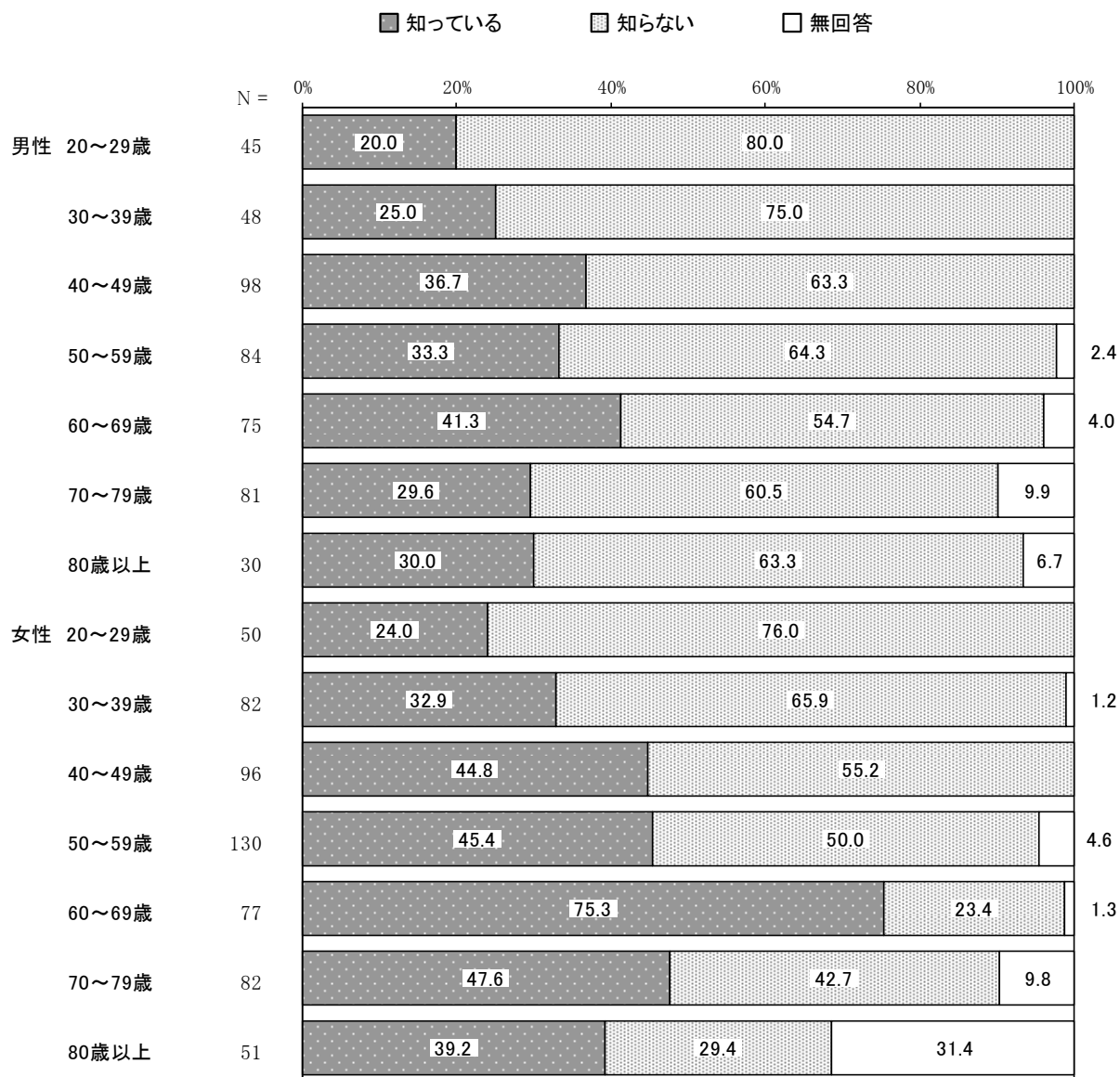
【性別】

性別でみると、女性の方が男性よりも「知っている」が13.1ポイント高い。



【性・年齢別】

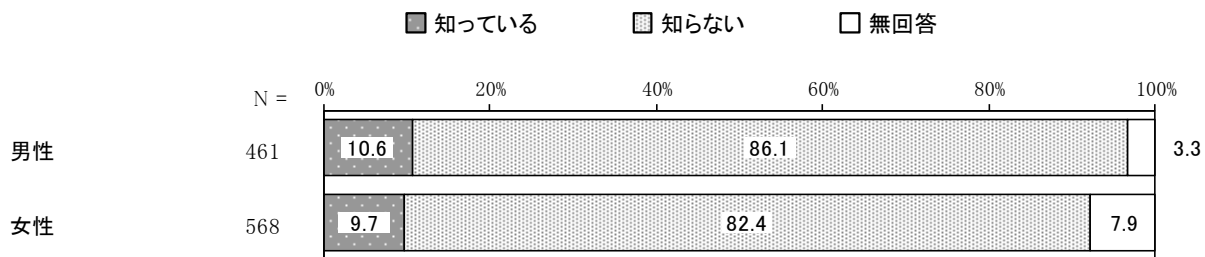
性・年齢別でみると、女性60～69歳で「知っている」が約7割を超えて特に高い。



市生活自立・仕事相談センター（だいJOBセンター）

【性別】

性別でみると、男女で大きな差は見られない。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性 20～29 歳、30～39 歳、80 歳以上で「知っている」が低い。

